

RebDrive 2.5 Dongle インストールガイド

アミュレット株式会社

目次

1. はじめに
 - 1.1 本書に関する注意事項
 - 1.2 安全にお使いいただくために
 - 1.3 サポートおよび保証について
2. 製品内容
 - 2.1 内容物
 - 2.2 各製品の特徴
 - 2.3 付属品について
3. 互換情報
 - 3.1 対応機種
 - 3.2 対応OS
 - 3.3 対応機器
4. ハードウェアセットアップ
 - 4.1 ハードディスクドライブの取付
 - 4.2 ハードディスクケースとRebDrive各コネクタの接続
 - 4.3 RebDrive各コネクタのパソコンの接続
 - 4.4 ACアダプタの使用方法
5. ソフトウェアインストール
 - 5.1 Windows95, 98
 - 5.1.1 PCカード
 - 5.2 Windows98SE, Me
 - 5.2.1 PCカード
 - 5.2.2 USB2.0
 - 5.2.3 FireWire
 - 5.3 Windows NT
 - 5.3.1 PCカード
 - 5.4 Windows2000/XP
 - 5.4.1 PCカード
 - 5.4.2 USB2.0
 - 5.4.3 FireWire
 - 5.5 Mac OS
 - 5.5.1 PCカード
 - 5.5.2 USB2.0
 - 5.5.3 FireWire
 - 5.6 Mac OS X
 - 5.6.1 USB2.0
 - 5.6.2 FireWire
 - 5.7 Linux
 - 5.7.1 PCカード
 - 5.7.2 USB2.0
6. トラブルシューティング
7. 主な仕様

1. はじめに

この度は、RebDrive 2.5 Dongleシリーズ製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。製品を正しくお使いいただくため、使用前に必ず本書をお読みください。
また、取扱説明書はいつもご参照いただけるよう、大切に保管してください。

1.1 本書に関する注意事項

本取扱説明書は、製品の都合により、予告無く変更することがございます。
また、本書に記載される会社名ならびに商品名は、各社の登録商標となっています。

1.2 安全にお使いいただくために

本書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、以下の絵表示で注意を呼びかけています。その表示と意味が次のようになっています。

< 警告！ >

誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

< 注意！ >

誤った取扱をすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

< 禁止！ >

この表記は、禁止の行為であることを示しています。

< 表記 >

この表記は、行為を規制したり、指示する内容を示しています。「表記」の部分に、具体的な指示内容が示されています。

< 注意！ >

< 電源プラグを抜いてください！ >

次のような異常の場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、サポートセンターか、販売元にご連絡下さい。そのまま使用すると、火災・感電のおそれがあります。

- (1) 機器に発熱、異臭、発煙、異常な音などが認められた時
- (2) 機器内部に液体や金属が入った時
- (3) 機器を落としたり、破損した時

< 電源プラグを抜いてください！ >

機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
移動時にコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！ >

電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。
コードを引っ張るとコードが傷み、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！ >

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

< 禁止！>

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

< 禁止！>

機器の上に重い物を置いたり、乗ったりしないでください。
バランスが崩れて落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

< 禁止！>

機器の上に水などの入った容器または金属物を置かないで下さい。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！>

湿気や埃の多い場所、油煙や湯気があたるような場所での使用はさけてください。
火災・感電の原因となることがあります。

1.3 サポートおよび保証について

サポート内容

アミュレット株式会社は、本製品のご購入日から1年間、通常の使用のもとで、材質および製造上の物理的不具合がないことを保証します。万一、この期間内に製品に不具合が発見された場合、サポートセンターに連絡して下さい。連絡する際には、必ず保証書をご準備下さい。

お問い合わせ窓口

製品に関するトラブルが発生した場合には「RebDriveサポートフォーム」からお問い合わせすることができます。サポートには情報の収集が必要不可欠ですので、できるだけトラブルの具体的な内容を記載して下さい。後ほど、弊社のサポート担当よりご連絡をさせていただきます。

<http://www.amulet.co.jp/products/RebDrive/support/>

< 注意！>

動作しないという場合でも事前の連絡も無く送付された場合には有償修理扱いとなる場合がございます。必ず送付前にご一報いただけるようお願い申し上げます。

連絡先

アミュレット株式会社 サポートセンター

TEL. 03-5295-8418

FAX. 03-5295-8424

Email: support@amulet.co.jp

2 . 製品内容

2 . 1 内容物

RebDrive 2.5 Dongle PCカード(AMU-RD25DPC)
RebDrive 2.5 Dongle ハードディスクケース(黒と青)
PCカード Dongle
ACアダプタ
CD-ROM(Shining Technology, Inc.社製)
取付ネジ(HD取付用太4本、ケース用4本)
保証書
RebDrive 2.5 Dongle インストールガイド(本書)

RebDrive 2.5 Dongle USB2.0(AMU-RD25DUSB)
RebDrive 2.5 Dongle ハードディスクケース(黒と青)
USB2.0 Dongle
ACアダプタ
CD-ROM(Shining Technology, Inc.社製)
取付ネジ(HD取付用太4本、ケース用4本)
保証書
RebDrive 2.5 Dongle インストールガイド(本書)

RebDrive 2.5 Dongle FireWire(AMU-RD25DFW)
RebDrive 2.5 Dongle ハードディスクケース(黒と青)
FireWire Dongle
ACアダプタ
CD-ROM(Shining Technology, Inc.社製)
取付ネジ(HD取付用太4本、ケース用4本)
保証書
RebDrive 2.5 Dongle インストールガイド(本書)

RebDrive 2.5 Dongle PCカード+USB2.0+FireWire(AMU-RD25FULL)
RebDrive 2.5 Dongle ハードディスクケース(黒と青)
PCカード Dongle
USB2.0 Dongle
FireWire Dongle
ACアダプタ
CD-ROM(Shining Technology, Inc.社製)
取付ネジ
保証書
RebDrive 2.5 Dongle インストールガイド(本書)

2 . 2 各製品の特徴

RebDrive 2.5 ドングルシリーズは、次の特徴をもっています。

- ・ 2.5インチハードディスクを装着することにより、ポータブルな外付けハードディスク装置としてご利用になれます。
- ・ ドングルの交換が可能
PCカード/USB2.0/FireWireの3つのインターフェースを1つのケースで利用することができます。

- ・ 携帯に便利なハンディサイズ
長さ130mm x 幅75mm x 厚さ25mm (ハードディスクケースのみ) で、持ち歩くのも簡単です。
- ・ 余ったハードディスクも有効活用
ノートパソコンのハードディスクをアップグレードした場合、余ったディスクをRebDriveに入れて使うことができます。経済的に、外付けストレージを作成できます。
- ・ 各種OSに対応
Windows, Mac OS, Linuxに対応しています。

RebDrive 2.5 Dongle PCカード

ほとんど全てのノートパソコンに付属しているPCカードスロットに対応しています。転送速度は最大16Mbpsですが、幅広い機器、OSに対応しているのが特徴です。

対応OS: Windows95, Windows98, WindowsME, WindowsNT
WindowsNT, Windows2000, WindowsXP, 漢字Talk 7.6
Mac OS 8.x および9.x, Red Hat Linux 7.3

RebDrive 2.5 Dongle USB2.0

ノートパソコンやデスクトップ機に付属しているUSBポートに対応しています。USB1.1とUSB2.0の両方をサポートし、幅広い機器に対応すると共に、高速転送も実現しています。

対応 OS: Windows ME, Windows2000, WindowsXP,
Mac OS 9.1以降, Mac OS X, Red Hat Linux 7.3, YellowDogLinux

RebDrive 2.5 Dongle FireWire

ノートパソコンやデスクトップ機に付属しているFireWireポートに対応しています。AppleのMacintoshシリーズや、Sony VAIOシリーズといった、FireWire/IEEE-1394/i.Linkポートを持ち合わせたパソコンとの接続が可能で、高速転送を実現しています。(i.Linkポートに接続するためには、6pin-4pin変換コネクタが別途必要です)

対応 OS: Windows98SE, Windows ME, Windows2000, WindowsXP,
Mac OS 9.1以降, Mac OS X

RebDrive 2.5 Dongle PCカード+USB2.0+FireWire

3つのインターフェースを全て備えた製品です。必要に応じてDongleを取り替えれば、自在に外付けハードディスクに取り付けることができます。複数のパソコン間でデータの受け渡しをする方にお勧めします。

2.3 付属品 について

ACアダプタ

RebDrive 2.5 Dongleでは、ACアダプタが標準で添付されています。ハードディスクとDongleの組み合わせによっては、ACアダプタをつなげなくとも動作する場合があります。しかし、動作の安定性の観点から、ACアダプタを装着して動作されることをお勧めします。

ドライバCD

ドライバCDは、本製品OEM供給元である、Shining Technology, Inc.社のCD-ROMが入っています。本書で「ドライバCD」という場合、Shining Technology, Inc.社製のCD-ROMを指します。

3 . 互換情報

3 . 1 対応機種

PCカード Dongle

PCMCIA Release 2.1 Typell仕様に準拠したPCカードスロットを装備したPC/AT互換機

PCMCIA Release 2.1 Typell仕様に準拠したPCカードスロットを装備した

Apple PowerBook(PowerBook2400以降)

USB2.0 Dongle

USB2.0 インターフェースポートを搭載したPC/AT互換機

USB1.1インターフェース・ポートを搭載したPC/AT互換機(この場合はUSB1.1で動作します)

USB1.1インターフェース・ポートを搭載したApple Macintoshシリーズ

< USB2.0ポートがない機種の場合 >

パソコン本体にUSB2.0ポートがない機種では、PCIまたはCardBusのUSB2.0カードが別途必要です。

FireWire Dongle

FireWire/IEEE-1394/i-Linkポートを搭載したPC/AT互換機

FireWireポートを搭載したApple Macintoshシリーズ

< i-Linkポートについて >

i-Linkポートはコネクタの形状が異なります。FireWire Dongleに接続させるためには、変換コネクタが必要となります。また、i-Linkポートからは電源供給がなされないため、利用時にはACアダプタを必ず装備するか、または電源供給が可能なFireWire Hub経由で接続する必要があります。

< FireWireがない機種の場合 >

パソコン本体にFireWireポートがない機種は、PCIまたはCardBusのFireWireカードが別途必要です。

3 . 2 対応OS

PCカード Dongle

Windows95、Windows98、Windows98 Second Edition(Windows 98SE)

Windows Millenium Edition(Windows ME)、Windows NT4.0、Windows 2000、WindowsXP

漢字Talk 7.6以降、Mac OS 8.x および9.x

RedHat Linux 7.3

< Mac OS X > RebDrive PCカード Dongleは、Mac OS Xには対応していません。

USB2.0 Dongle

Windows Millenium Edition(Windows ME)、Windows2000、WindowsXP

Mac OS 9.1以降、Mac OS X

RedHat Linux 7.3、Yellow Dog Linux 2.2以降

FireWire Dongle

Windows98 Second Edition(Windows 98SE)、Windows Millenium Edition(Windows ME)

Windows2000、WindowsXP

Mac OS 9.1以降、Mac OS X

3 . 3 対応機器

ハードディスクケース

12.5mm厚の2.5インチIDEハードディスクドライブ

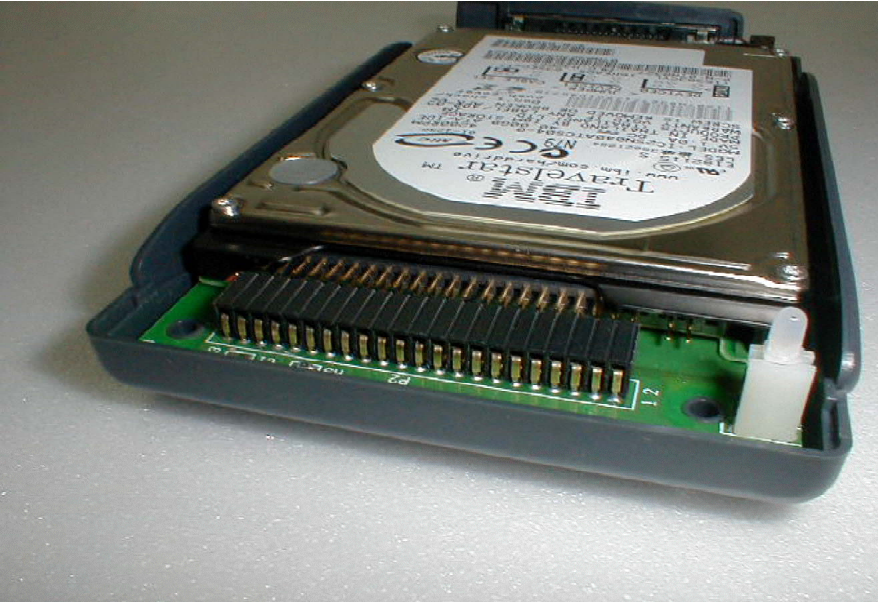
9.5mm厚の2.5インチIDEハードディスクドライブ

4 . ハードウェアセットアップ

4 . 1 ハードディスクドライブの取り付け

1) ハードディスクドライブの小さなピンが出ている側を下にして、ピンの差し込み口に合わせてハードディスクを置いてください。

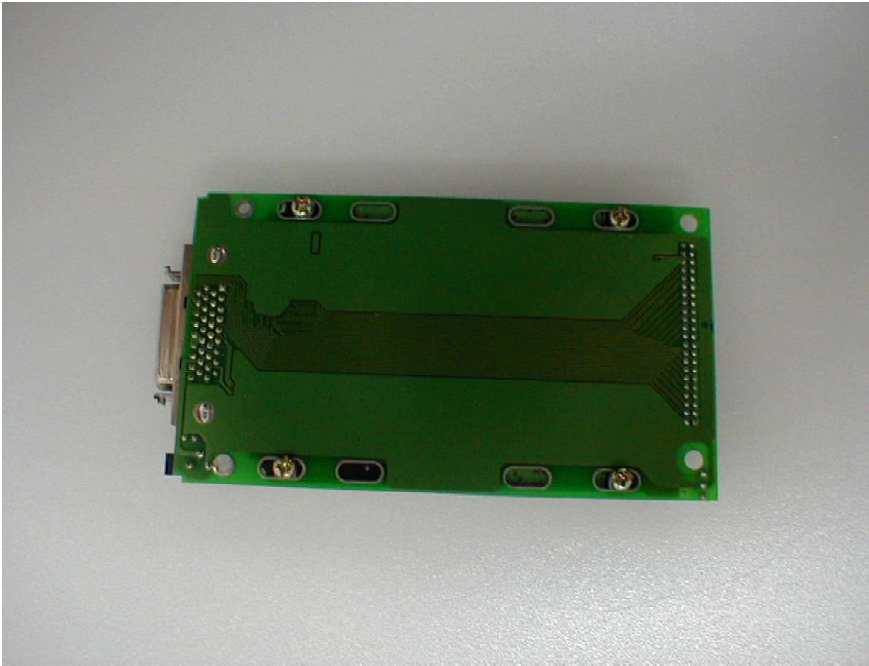
ハードディスクは上下二段にピンが並んでいます。右端に独立している4本のピンがありますが、この4本はRevDriveハードディスクケースへの接続には直接関係ありません。



2) 右端の4本を除いた部分をRevDriveの緑色の基盤の横長の黒いコネクタ部に差し込みます。このときにハードディスクのコネクタピンを曲げないように注意しながら、押し込むように接続してください。右端の4本は基盤側に差し込むコネクタではありません。



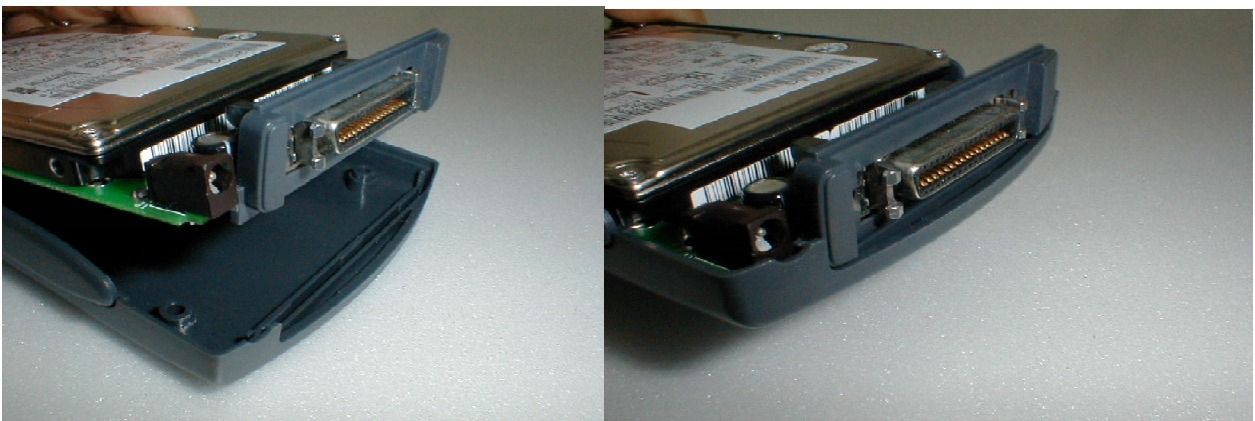
3) ハードディスクをコネクタに差し込んだら、付属しているネジでハードディスクを基盤に固定します。太めで短いプラスネジを使用し、緑色の基盤とハードディスクを固定します。ハードディスクのネジ位置はメーカーにより若干異なる場合がありますが、楕円となっておりますので調整することができます。



4) 緑色の基盤にハードディスクを固定したら、外側のケースの取り付けです。下側になるケースに基盤をはめこめます。基盤のコネクタ側とケースの切り欠きを合わせます。



5) 次にコネクタ部分のカバーを付けます。コネクタを正面に見て、右側部分にコネクタカバーの長い方を取り付けます。緑の基盤をやや持ち上げて、コネクタをカバーから通して、下側ケースにはめてください。



6) 上側ケースは、LEDのはまる部分に気を付けて取り付けてください。



7) 長めのプラスネジ4本でケースの四隅を固定します。



4.2 ハードディスクケースとRevDrive各コネクタの接続

PCカード Dongle

インターフェースコネクタにPCカードのコネクタを、DCコネクタにACアダプタを接続してください。



USB2.0 Dongle

インターフェースコネクタにUSB2.0コネクタを、DCコネクタにACアダプタを接続してください。



FireWire Dongle

インターフェースコネクタにFireWireコネクタを、DCコネクタにACアダプタを接続してください。



5. ソフトウェアインストール

5.1 Windows95, Windows98

Windows95, 98では、PCカード Dongleを利用することができます。 Windows 98 Sectionに
ましては、5.2を参照下さい。

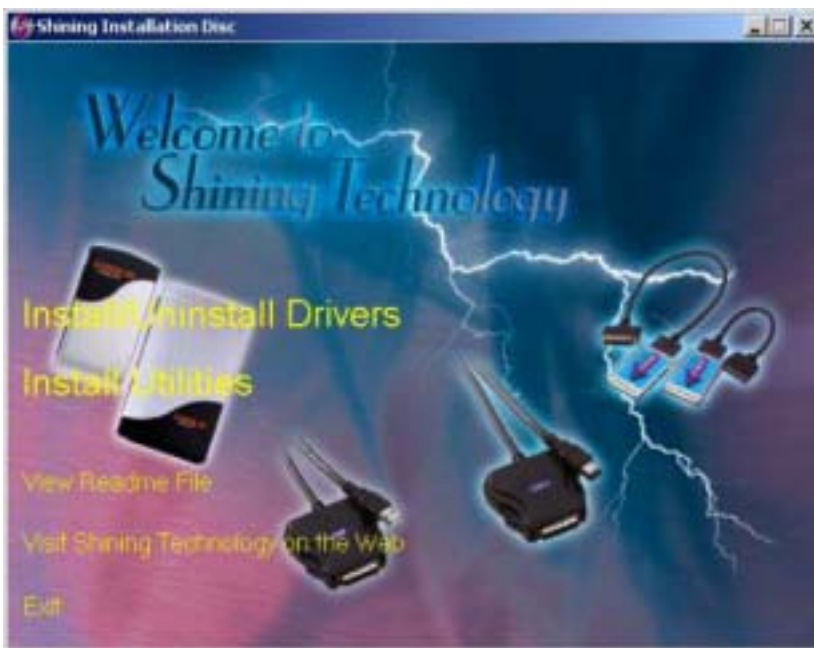
5.1.1 PCカードDongle

5.1.1.1 ドライバソフトウェア

PCカード Dongleを利用するためには、ドライバのインストールが必要です。

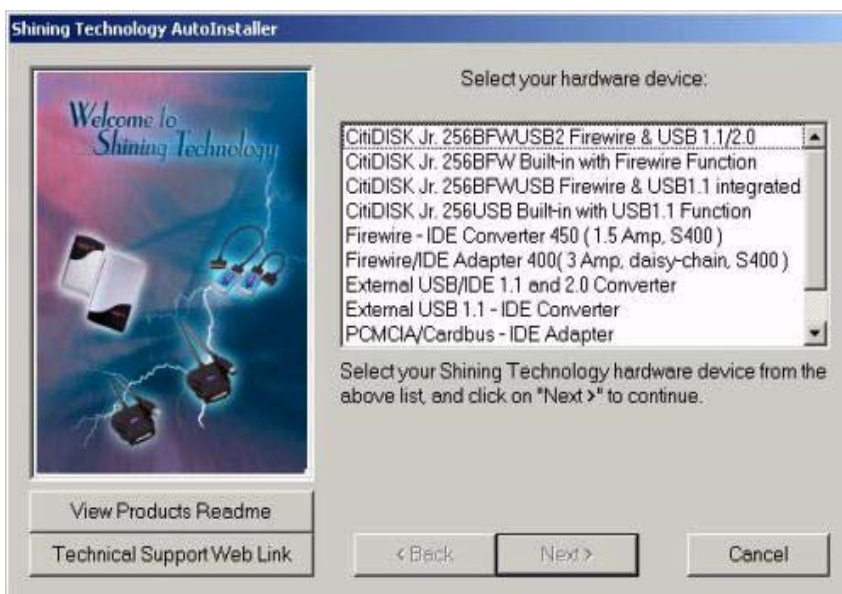
インストールを開始する前に、開かれている文書や起動中のアプリケーションが無いことを確認します。

CD-ROMドライブにShining CD-ROMをセットすると、インストーラが自動的に開始します。開始しない場合は、デスクトップの"マイコンピュータ"を開き、CD-ROMのアイコンをダブルクリックします。



(図1：メインメニューの画面)

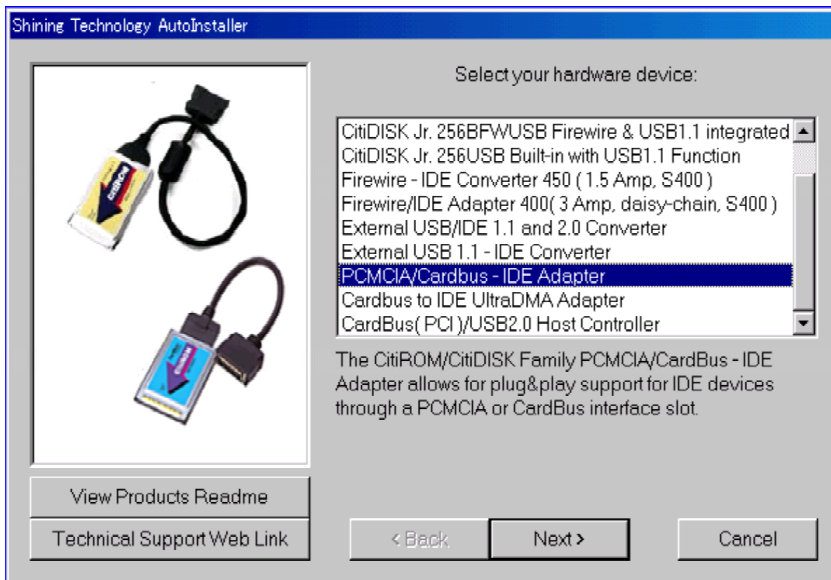
ドライバインストーラメニュー(図1)が表示されます。メニューから"Install/Uninstall Drives"を選択します。ここで、インストールするインターフェースドライバの種類を確認することができます(図2)。



(図2：PCカードが選択)

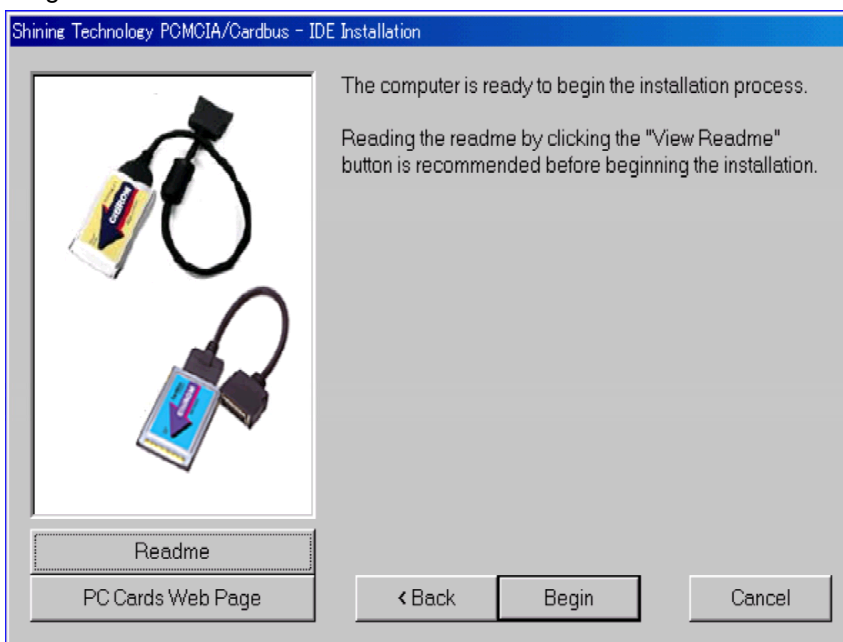
ここで、"PCMCIA/Cardbus - IDE Adapter"を選択します。その後、"Next"をクリックして続きませし、間違って別の機種を選択した場合は、次のメニューで"Back"または"Cancel"ボタンをクリックしてください。インストールを中止します。間違っただライバをインストールしてしまった場合は、間違って選択したドライバをアンインストールして、もう一度インストール作業を開始します。

"PCMCIA/Cardbus - IED Adapter"を選択したあと、以下のようなメッセージ画面（図3）が表示され、次に続けるかどうかを確認します。メッセージ画面に表示されているドングルの写真が、お手持ちの機種と同じかどうか確認し、"Next"ボタンをクリックします。



（図3：PCカードドングルが表示）

ここで、最終確認のためのメッセージが表示されます（図4）。ドライバをインストールするために"Begin"をクリックしてください。ドライバのインストールが始まります。



（図4：インストール最終確認）

ドライバのインストール開始後、進捗ダイアログ画面が表示され、インストールの進捗状況がわかります。インストールが完了した時点で、次に行うべき事項を英語で表示します。

ドライバのインストール終了後、システムの再起動を行います。再起動後、PCカードドングルを使用することができます。

参考： 手動でPCカードドングルのドライバをインストールする場合には、以下の場所にドライバがあり

ますのでご利用下さい。

CD名： Software for PC V20

ディレクトリ： Drivers/Citirom/Window9X

ファイル名： Pcmide95.inf

5.1.1.2 PCカード dongle の接続と取り外し

・接続

RebDriveに接続したPCカード dongle をコンピュータ本体のPCカードスロットに装着することで利用できます。

・取り外し

画面右下のタスクトレイ内の「PCカードの状態」アイコンをダブルクリックして、PCカードのプロパティを起動し、PCカード dongle を挿入している祖気とを選択して「停止」ボタンを押してください。数秒後に、「このデバイスは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら、PCカード dongle を取り外してください。

5.1.1.3 Windowsにおけるパーティションの基本

ハードディスクがオペレーティングシステムによって認識されて使用可能になるためには、パーティションを作成し、指定したファイルシステムによりフォーマットすることが必要です。

・ファイルシステムの種類

本製品では以下のフォーマットをサポートしています。

16bit FAT: 単一のパーティションの最大領域は2047MB（メガバイト）です。

Windows95以降全てのファイルシステムで利用できます。

32bit FAT: 単一のパーティションの最大領域は2047GB（ギガバイト）です。

WindowsNTを除く、Windows95 OSR2以降の全てのファイルシステムで利用できます。

NTFS: Windows NT File Systemの略。Windows NT, Windows2000で利用できます。

NTFS5: 暗号化機能を持つNTFSで、Windows 2000,およびWindows XPで利用できます。

・パーティション（領域・区画）の種類

パーティションには次の3種類があります。

基本パーティション（プライマリ・パーティション）

PCでは、一つのハードディスクを複数のパーティション（領域・区画）に分割して使用できます。このパーティションを基本パーティションといい、最大4つの基本パーティションを作成できます。但し、拡張パーティションが存在する場合は最大3つまでしか作成できません。作成された基本パーティションを更に複数に分割することはできません。

ハードディスクをシステム起動ディスクとして設定する場合、そのハードディスクは1つの基本パーティションがあり、アクティブ（起動可能）に設定されなければいけません。このパーティションをアクティブ・パーティションといい、これらの情報は、MBR（Master Boot Record）中のパーティションテーブルに格納されています。起動の必要のないハードディスクは、基本、拡張、論理パーティションの様々な組み合わせでパーティションを作成することができます。但し、Windows95, Windows 98では、1台のハードディスクに存在する基本パーティションの数が一つであることを前提としており、複数の基本パーティションがある場合には、アクティブ・パーティションしか、アクセスすることができません。

拡張パーティション

PCでは、一つのハードディスクに最大4つまでの基本パーティションを設定できますが、それ以上のパーティションが必要な場合には、基本パーティションの一つを拡張パーティションとし、その中に複数の論理パーティションを作成することができます。拡張パーティションは、一つのハードディスクに一つしか設定できません。拡張パーティションは、構造的には基本パーティションと同じだが、使われかたが異なるため、基本パーティションと区別しています。

論理パーティション（ロジカル・パーティション）

拡張パーティション中に作成されたパーティションを論理パーティションといいます。論理パーティションは、拡張パーティションの中をさらに小さな部分に分割して設定することが可能です。論理パーティションを定義した後は、OSはドライブ名をそれぞれの論理パーティションに割り当てますが、そのドライブを「論理ドライブ」と呼びます。

・ドライブ名の割り当て

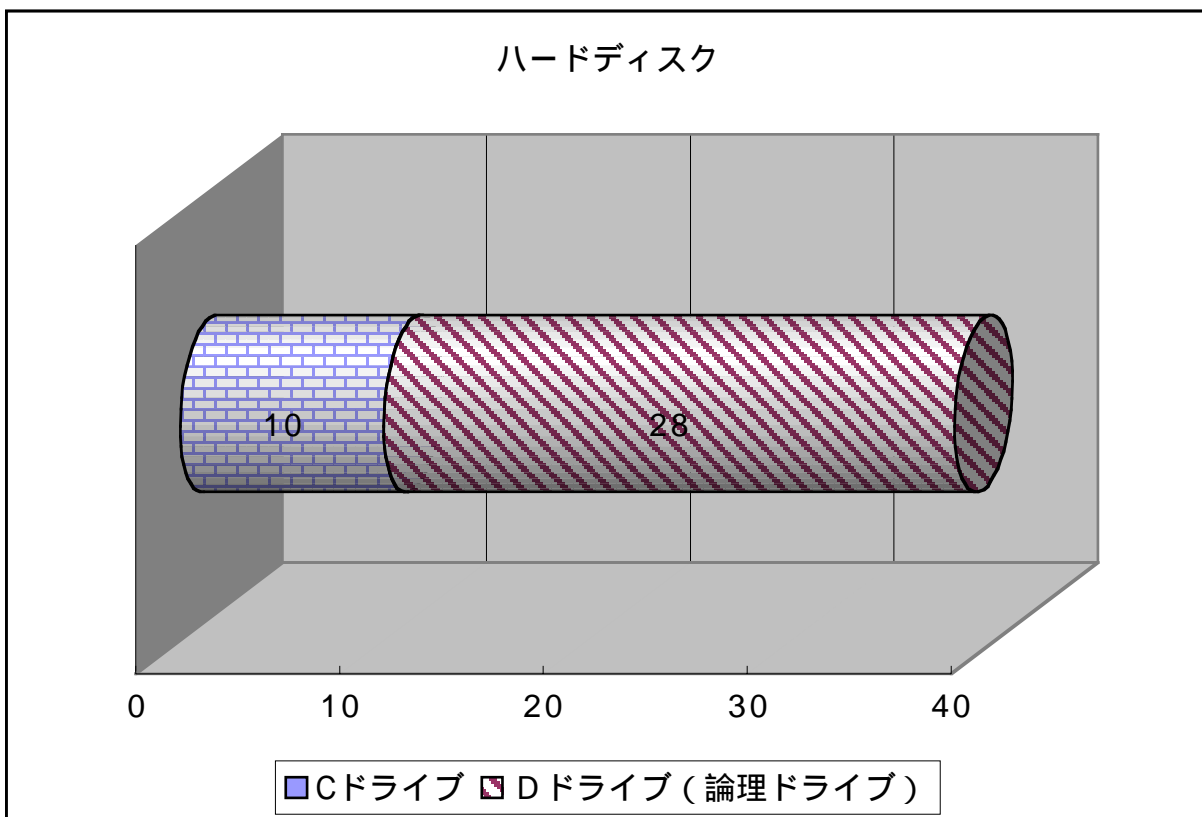
利用可能なドライブ名は26個です。この中には、ネットワークドライブの割り当てや、外部記憶デバイスの追加も含まれますので、パーティションの数を計画する際には注意が必要です。

・パーティションのルール

1つのハードディスクの中には最大4つの基本パーティションを作成できます。そのうち1つの基本パーティションがアクティブ（起動可能）に設定できます。アクティブパーティションは、コンピュータ起動時に使われ、Cドライブとして扱われます。論理パーティションは、拡張パーティションの中に作成されません。

・具体例

以下は、典型的なハードディスク・パーティションを簡単に示しました。



（図5） 40GBのハードディスクのパーティションおよびドライブ名の割り当て

パーティション名称	容量	ドライブ名
基本パーティション	10GB	Cドライブ
拡張パーティション	約28GB	Dドライブ(論理ドライブ)

なお、コンピュータでは1K = 1024の換算がなされるため、表示上は、40GB/(1.024x1.024)=約38,147KBとなります。ハードディスクの容量はメーカーや型番によって異なりますのでご注意ください。

5.1.1.4 パーティションの設定

パーティションの設定はWindows標準添付のFDISKで行います。

1) FDISKの起動

MS-DOSプロンプトを開きます。fdiskとタイプして[Enter]を押します。「512MB以上のディスクがあります」には[Y]を押して、[Enter]を押します。

512 MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2 GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません (Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む)。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量のドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N).....? [Y]

2) ハードディスクの選択

FDISKのメインメニューが表示されます。「5.現在のハードディスクドライブを変更」を選択するために[5]を押して[Enter]を押します。

Microsoft Windows Millennium
ハードディスクセットアッププログラム
(C) Copyright Microsoft Corp. 1983 - 2000

FDISK オプション

現在のハードディスク： 1

次のうちからどれか選んでください：

1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください： [5]

FDISK を終了するには Esc キーを押してください。

本製品に組み込んだハードディスクが2台目のディスクの場合は[2]を押して[Enter]を押してください。2台目以降のハードディスクドライブが複数台ある場合は、パーティションが設定されておらず(ハードディスクドライブの容量と[空き]の部分に同一の容量が表示されます)、本製品に内蔵したハードディスクドライブと同じ容量が認識されているハードディスクドライブを確認し、その番号を選択してください。

現在のハードディスクドライブを変更				
ディスク	Drv	Mバイト	空き	使用
1			19077	100%
	C:		19077	
2			38147	38147 %

(1 Mバイト=1048576 バイト)
ハードディスクドライブの番号を入力してください(1-2).....[2]
FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

3) パーティション(領域)の作成

「1. MS-DOS領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。この後、パーティションの構成によって作業が異なり、一つだけ作る場合は4)を、二つ以上に区切るときは5)を参照してください。

FDISK オプション	
ハードディスク:	2
次のうちからどれか選んでください:	
1.	MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2.	アクティブな領域を設定
3.	領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4.	領域情報を表示
5.	現在のハードディスクドライブを変更
どれか選んでください:	[1]
FDISK オプションに戻るには	Esc キーを押してください。

4) 基本パーティションを一つだけ作る場合

4 - 1) 「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。

MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

ハードディスク： 2

次のうちからどれか選んでください：

1. 基本MS-DOS 領域を作成
2. 拡張MS-DOS 領域を作成
3. 拡張MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれか選んでください： [1]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

4 - 2)

しばらくの間ドライブをチェックした後、「MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますか？」と表示されたら、[Y]を押して、[Enter]を押します。

4 - 3)

「基本MS-DOS領域を作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」と表示されたら、最大サイズを割り当てる場合は[Y][Enter]の順に押して、[ESC]キーでFDISKオプション画面に戻ります。

基本 MS-DOS 領域を作成

ハードディスク： 2

基本MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか
(Y/N).....? [Y]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

5)パーティションを複数設定する場合(3)から続く)

5-1)

「1.基本MS-DOS領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。

5-2)基本パーティションの作成

しばらくの間ドライブをチェックした後、「MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますか?」と表示されたら、[N]を押します。ハードディスクドライブの総容量が表示され、もう一度ドライブをチェックします。「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量(MB単位の数字)または割合(数字の後ろに%を付ける)を入力し、[Enter]を押します。

```

                基本 MS-DOS 領域を作成

ハードディスク： 2

ディスクの総容量は 38139 Mバイトです。(1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当て可能な最大領域は 38139 Mバイト(100% ) です。

領域のサイズをMバイトか全体に対する割合で(%)入力してください。
基本 MS-DOS 領域を作ります.....: [10000]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

```

「基本MS-DOS領域を作成しました。ドライブ名を変更または追加されました。」というメッセージが表示されますので、[Esc]キーを押してFDISKオプションの画面まで戻ります。

5-3)拡張パーティションの作成

FDISKオプションの画面から、[1]を入力し[MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成]を選択し、[Enter]を押します。

```

                基本 MS-DOS 領域を作成

ハードディスク： 2

領域      状態 種類      ボリュームラベル  Mバイト  システム  使用
E:  1      状態 種類      PRI  DOS          %          10001      UNKNOWN

```

基本MS-DOS領域を作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

「次のうちどれか選んでください:」という表示のあとに、選択肢が表示されますので、[2]を入力し「拡張 MS-DOS 領域を作成」を選択し、[Enter]を押します。

```
MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

ハードディスク: 2

次のうちからどれか選んでください:

1. 基本MS-DOS 領域を作成
2. 拡張MS-DOS 領域を作成
3. 拡張MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれか選んでください: [2]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。
```

しばらくの間ドライブをチェックした後、ハードディスクドライブの総容量と領域に割り当て可能な最大容量が表示されます。「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量(MB単位の数字)または割合(数字の後ろに%を付ける)を入力し、[Enter]を押します。

```
拡張 MS-DOS 領域を作成

ハードディスク: 2

領域 状態 種類 ボリュームラベル Mバイト システム 使用
E: 1          PRI  DOS                %          10001    UNKNOWN

ディスクの総容量は 38139 Mバイトです。(1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当て可能な最大領域は 28137 Mバイト( 74% ) です。

領域のサイズをMバイトか全体に対する割合で(%)入力してください。
基本 MS-DOS 領域を作ります.....: [28137]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。
```

26

「拡張MS-DOS領域を作成しました。続けるには Esc キーを押してください。」というメッセージが表示されますので、[Esc]キーを押します。

5 - 4) 論理ドライブの割り当て

拡張MS-DOS領域を作成すると、「論理ドライブは定義されていません。」というメッセージが表示され、ドライブをチェックした後、論理MS-DOS領域の割り当て画面になります。拡張MS-DOS領域の容量と論理ドライブに割り当て可能な最大容量が表示されます。「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量(MB単位の数字)または割合(数字の後ろに%を付ける)を入力します。

拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

論理ドライブは定義されていません。

ディスクの総容量は 38139 Mバイトです。(1 Mバイト=1048576 バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は 28137 Mバイト(74%) です。

論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合で(%)入力してください。[28137]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

拡張MS-DOS領域の空き容量すべてを割り当てるまで、くり返し論理MS-DOS領域の割り当て画面が表示されます。拡張MS-DOS領域の空き容量をすべて割り当てず、途中で終了する場合にはEsc キーを押してFDISKオプション画面に戻ってください。拡張MS-DOS領域のすべての容量に対して論理MS-DOS領域が設定されると、[拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。]というメッセージが表示されますので、[Esc] キーを押してFDISKオプション画面に戻ってください。

拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

Drv	ボリュームラベル	Mバイト	空き	使用
F:		28137	UNKNOWN	100%

拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて
論理ドライブに割り当てられています。
続けるには Esc キーを押してください。

5 - 5) FDISKの終了と再起動

FDISKオプションの画面で[Esc]キーを押してFDISKを終了します。ハードディスク領域の変更があった場合には、「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。変更または作成したドライブは、すべて再起動後にフォーマットする必要があります。」というメッセージが表示されますので、確認し[Esc]キーを押します。設定したハードディスク上の領域をフォーマットする前に、正しい手順でRevDriveをパソコン本体から取り外し、Windowsを再起動してください。

5.1.1.5 ドライブのフォーマットとマウント

再起動後、デスクトップ上の[マイコンピュータ]を開いてから、RevDriveをパソコンへ接続してください。RevDriveを接続する、と[マイコンピュータ]内に領域設定されたドライブのアイコンが表示されます。ドライブのアイコンを右クリックし、[フォーマット]を選択してください。[フォーマット]のウィンドウが開いたら、「フォーマットの種類」の項目の「通常フォーマット」をチェックし、[開始]ボタンを押します。フォーマットが問題なく終了すればドライブは使用可能です。

5.2 Windows98SE, WindowsME

Windows98SE WindowsMEでは、PCカード Dongleを利用することができます。 Windows MEはつ
しては、USB2.0 Dongleを利用することができます。

Windows98SE WindowsMEでは、FireWire Dongleを利用することができます。

5.2.1 PCカードDongle

5.2.1.1 ドライバソフトウェア

5.2.1.2 PCカードDongleの接続と取り外し

5.2.1.3 Windowsにおけるパーティションの基本

5.2.1.4 パーティションの設定

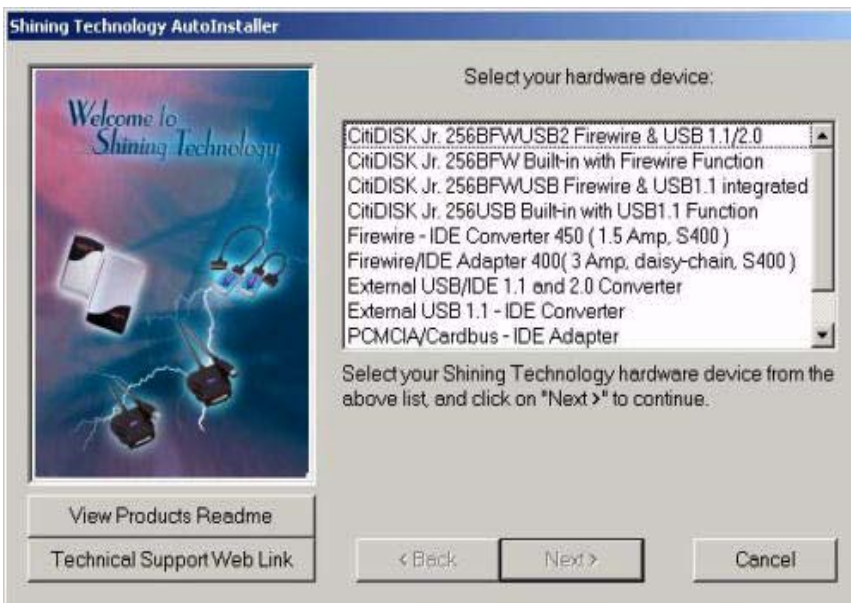
5.2.1.5 ドライブのフォーマットとマウント

PCカードWindows95/98の項目と内容は同じです。5.1.1をご参照下さい。

5.2.2 USB2.0 Dongle

5.2.2.1 ドライバソフトウェア

USB2.0 Dongleを利用するためには、ドライバのインストールが必要です。インストールを開始する前
に、開かれている文書や起動中のアプリケーションが無いことを確認します。CD-ROMドライブに、
Shining CD-ROMをセットすると、インストーラが自動的に開始します。開始しない場合は、デスクトップ
の"マイコンピュータ"を開き、CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックします。



(図6 : メインメニュー)

ドライバインストーラメニュー(図6)が表示されます。メニューから"Install/Uninstall Drives"を選択しま
す。ここで、インストールするインターフェースドライバの種類を確認することができます(図7)。



(図 7 : ハードウェアのデバイス選択画面、USBが選択されている)

ここで、"USB/IDE 1.1 and 2.0 Adapter"を選択します。その後、"Next"をクリックして続けます。し、間違って別の機種を選択した場合は、次のメニューで"Back"または"Cancel"ボタンをクリックしてください。インストールを中止します。間違っただライバをインストールしてしまった場合は、アンインストールして、もう一度インストール作業を開始します。

"USB/IDE 1.1 and 2.0 Adapter"を選択したあと、次に続けるかどうかを確認します。メッセージ画面に表示されているDongleの写真が、お手持ちの機種と同じか確認し、"Next"ボタンをクリックします。

そこで、最終確認のためのメッセージが表示されます。ドライバをインストールするために"Begin"をクリックしてください。ドライバのインストールが始まります。

ドライバのインストール開始後、進捗ダイアログ画面が表示され、インストールの進捗状況がわかります。インストールが完了した時点で次に行うべき事項を英語で表示します。

ドライバのインストール終了後、システムの再起動を行います。

再起動後、USB2.0 Dongleを使用することができます。

5.2.2.2 USB2.0 Dongleの接続と取り外し

・接続

RebDriveに接続したUSB2.0 Dongleをコンピュータ本体のUSBインターフェース・ポートに装着することで利用できます。

・取り外し

画面右下のタスクトレイ内の「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックして、プロパティを起動し、「USBディスク 大容量記憶デバイス上」を選択して「停止」ボタンを押してください。数秒後に、「このデバイスは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら、USB2.0 Dongleを取り外してください。

5.2.2.3 Windowsにおけるパーティションの基本

5.2.2.4 パーティションの設定

5.2.2.5 ドライブのフォーマットとマウント

5.1.1.3 - 5.1.1.5 PCカードWindows95/98の項目と内容は一緒です。そちらを参照してください。

5.2.3 FireWire Dongle

5.2.3.1 ドライバソフトウェア

FireWire Dongleを利用するためには、ドライバのインストールが必要ありません。

5.2.3.2 FireWire Dongleの接続と取り外し

・接続

RebDriveに接続したFireWire Dongleをコンピュータ本体のFireWire/IEEE1394/i.Linkインターフェース・ポートに装着することで利用できます。FireWire Dongleのインターフェースの形状は6pinですので、i.Linkのような4pinのインターフェースの場合は、別途変換アダプタを用意するか、FireWireハブを中継する必要があります。

・取り外し

画面右下のタスクトレイ内の「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックして、プロパティを起動し、「IEEE 1394 ディスク...」を選択して「停止」ボタンを押してください。数秒後に「IEEE 1394 ディスクは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら、FireWire Dongleを取り外してください。

5.2.3.3 Windowsにおけるパーティションの基本

5.2.3.4 パーティションの設定

5.2.3.5 ドライブのフォーマットとマウント

5.1.1.3 - 5.1.1.5 PCカードWindows95/98の項目と内容は一緒です。そちらを参照してください。

5.3 WindowsNT

WindowsNTでは、PCカード Dongleを利用することができます。

5.3.1 PCカードDongle

5.3.1.1 ドライバソフトウェア

PCカードWindows95/98の項目と内容は同じです。5.1.1.1を参照下さい。

5.3.1.2 PCカードDongleの接続と取り外し

Windows NTでは、起動中のPCカード dongleの接続と取り外しはできません。必ず起動前にPCカード dongleを接続し、システム終了後に、PCカード dongleを取り外してください。

5.3.1.3 Windowsにおけるパーティションの基本

PCカードWindows95/98の項目と内容は同じです。5.1.1.3を参照下さい。

5.3.1.4 パーティションの設定

Windowsに標準で添付されている「ディスクアドミニストレータ」で行います。

1) ディスクアドミニストレータを起動

管理者またはAdministratorsグループのメンバーとしてログオンし、スタートメニューから「プログラム」「管理ツール」「ディスクアドミニストレータ」を選択します。

2) ハードディスクの選択

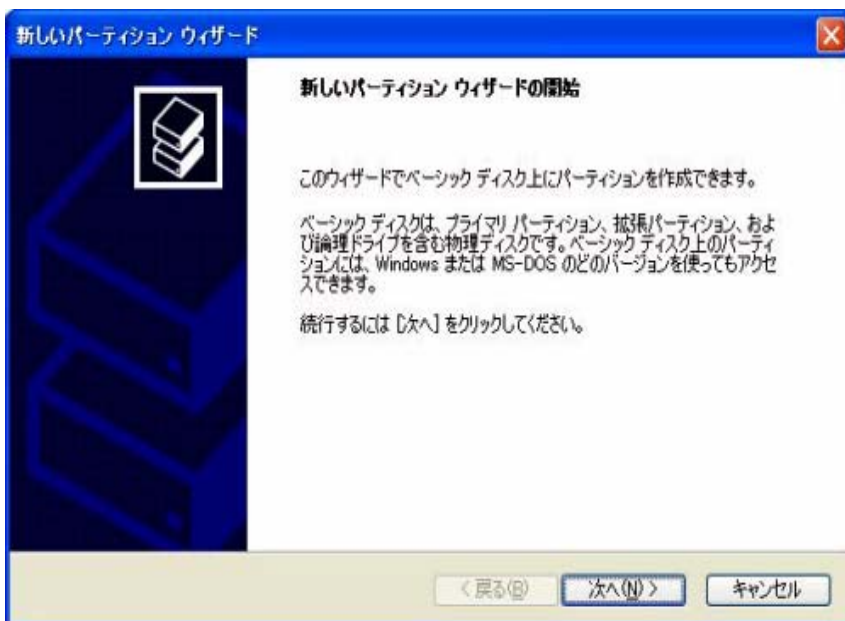
本製品に搭載したディスクに該当するドライブが「未割り当て」として表示されます。



(図 8 未割り当ての表示 画面はWindows2000でキャプチャ)

3) パーティション作成ウィザードの起動

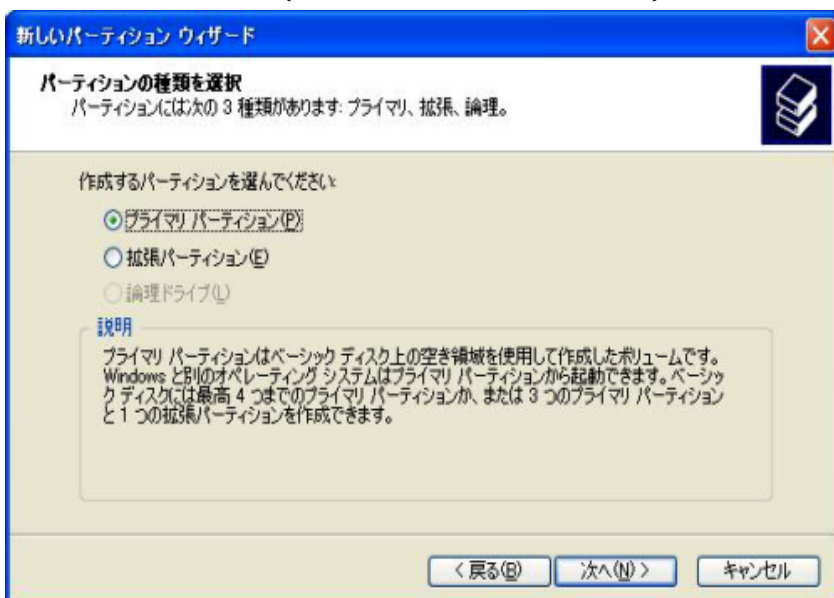
未割り当ての領域を右クリックし、「パーティションの作成」をクリックします。パーティションの作成ウィザードで「次へ」をクリックします。



(図 9 パーティションウィザード開始画面)

4) パーティションの種類を選択

パーティションの種類 (プライマリパーティション等) を選択して「次へ」をクリックします。



(図 1 0 パーティションの種類の選択画面)

5) パーティションのサイズを選択

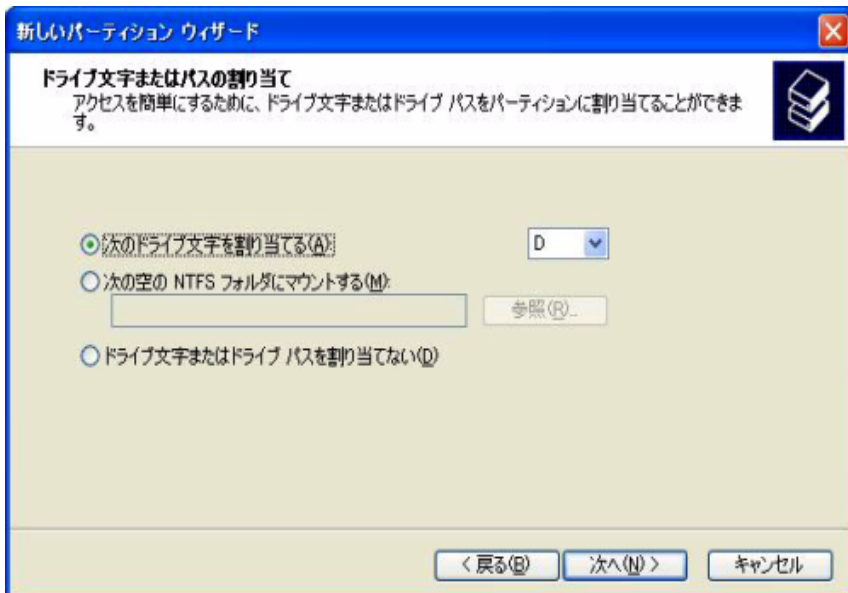
パーティションのサイズを選択して「次へ」をクリックします。



(図 1 1 パーティションサイズの指定画面)

6) ドライブ文字やパスの割り当て

ドライブ文字またはパスの割り当てで「次へ」をクリックします。

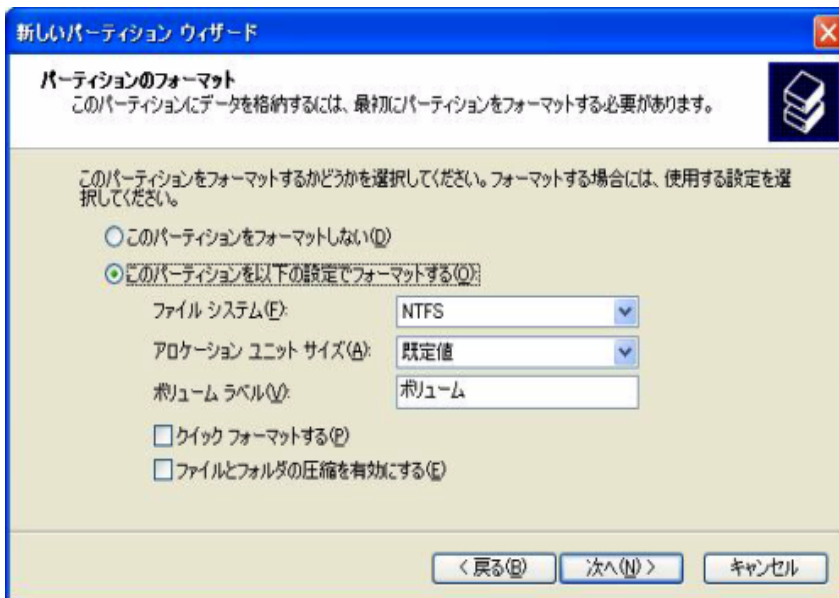


(図 1 2 ドライブ文字またはパスの割り当て画面)

5.3.1.5 ドライブのフォーマットとマウント

1) パーティションのフォーマット

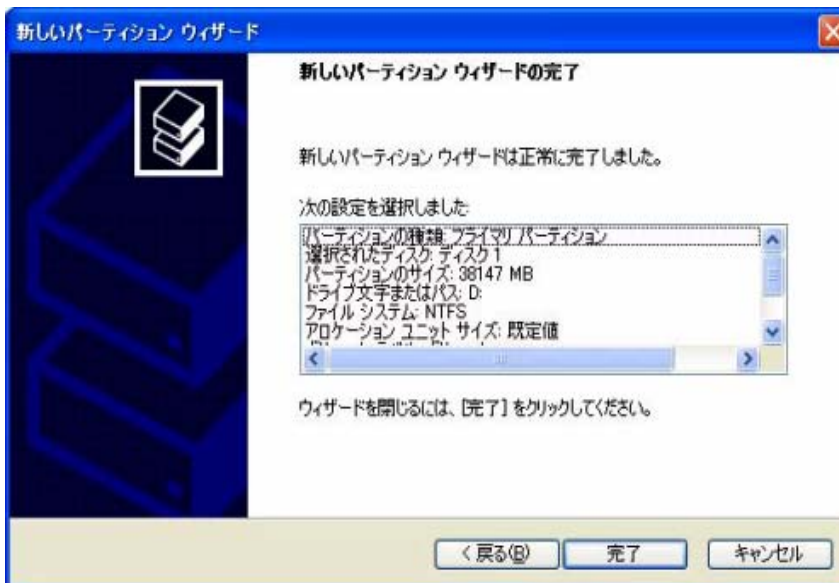
ファイルシステム等の項目を選択して「次へ」をクリックします。



(図 1 3 パーティションのフォーマット画面)

2) 作業完了

パーティションの作成ウィザードの完了で設定した内容を確認して「完了」をクリックします。フォーマットが問題なく終了すればドライブが使用可能となります。



(図 1 4 作業完了画面)

5.4 Windows2000/WindowsXP

Windows2000/XPでは、PCカード、USB2.0、FireWireのすべてのDongleを利用することができます。

5.4.1 PCカードDongle

5.4.1.1 ドライバソフトウェア

Windows2000/XPでは、OS側でサポートされているのでドライバのインストールは不要です。

5.4.1.2 PCカードDongleの接続と取り外し

5.4.1.3 Windowsにおけるパーティションの基本

5.1.1 PCカードDongle Windows95/98の項目と内容は同じです。5.1.1.2-5.1.1.3を参照してください。

5.4.1.4 パーティションの設定

パーティションの設定は、Windowsに標準で添付されている「ディスクの管理」で行います。

1) ディスクの管理を起動

管理者またはAdministratorsグループのメンバーとしてログオンし、「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「管理ツール」「コンピューターの管理」「記憶域」「ディスクの管理」を選択します。

2) ハードディスクの選択

以降は5.3.1 PCカードDongle WindowsNTの項目と同じです。5.3.1.4を参照下さい。

5.4.1.5 ドライブのフォーマットとマウント

5.3.1.5 PCカードDongle Windows NTの項目と内容は同じです。5.3.1.5を参照下さい。

5.4.2 USB2.0 Dongle

5.4.2.1 ドライバソフトウェア

Windows2000/XPでは、OS側でサポートされているのでドライバのインストールは不要です。

5.4.2.2 USB2.0 Dongleの接続と取り外し

5.2.2.2 USB2.0 WindowsMEの項目と内容は同じです。

5.4.2.3 Windowsにおけるパーティションの基本

PCカードDongle Windows95/98の項目と内容は同じです。5.1.1.3を参照下さい。

5.4.2.4 パーティションの設定

パーティションの設定は、Windowsに標準で添付されている「ディスクの管理」で行います。

1) ディスクの管理を起動

管理者またはAdministratorsグループのメンバーとしてログオンし「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「管理ツール」「コンピューターの管理」「記憶域」「ディスクの管理」を選択します。

2) ハードディスクの選択

以降は、5.3 PCカード WindowsNTの項目と同じです。5.3.1.4を参照下さい。

5.4.2.5 ドライブのフォーマットとマウント

PCカードDongle Windows NTの項目と内容は同じです。5.1.1.5を参照下さい。

5.4.3 FireWire Dongle

5.4.3.1 ドライバソフトウェア

5.4.3.2 FireWire Dongleの接続と取り外し

5.4.3.3 Windowsにおけるパーティションの基本

5.4.3.4 パーティションの設定

5.4.3.5 ドライブのフォーマットとマウント

5.2.3.1 - 5.2.3.5 FireWire Dongle Windows98SE WindowsMEの項目の内容はそちらを参照してください。

5.5 Mac OS (7.6 から 9.2.2)

Mac OSでは、PCカード、USB2.0、FireWireの全てのDongleを利用することができますが、OSのバージョンによって動作の有無が異なります。

5.5.1 PCカード Dongle

Mac OS 7.6から9.2.2まで対応しています。当社では、PowerBook1400以降のPCカードスロットを装着しているPowerBookでの動作を確認しています。

< 注意！ >

B'sCrew(BHA社製)はRebDrive PCカードDongleの動作に影響を及ぼす場合があります。RebDrive CPカードDongleで接続を行う際にはB'sCrewで初期化されたハードディスクを使用したり、B'sCrewのドライバが上書きされてしまう設定では使用しないで下さい。

5.5.1.1 ドライバソフトウェア

特に必要ありません。

5.5.1.2 RebDrive PCカードDongleの接続と取り外し

・接続

ハードディスクを搭載した本製品をPowerBook本体のPCカードスロットすることで利用できます。

・取り外し

本製品よりマウントされているハードディスクアイコンの全てをゴミ箱に入れる操作を行いますと、ハードディスクへのマウントが解除されます。その後PCカードDongleを取り外して下さい。

5.5.1.3 Mac OSにおけるパーティションの基本

ハードディスクがオペレーティングシステムによって認識されて使用可能になるためには、パーティションを作成し、指定したファイルシステムによりフォーマットすることが必要です。

・ファイルシステムの種類

本製品では以下のフォーマットをサポートしています。

HFS: 標準パーティション, Mac OS 7.6から利用できます。

領域の大きさに4ギガバイトの制限があります。

HFS+: 拡張されたパーティション, Mac OS 8.1以降で利用できます。

File Exchange: Windowsとコンパチブルなパーティション

< 注意！ >

File Exchangeでは、ファイルの互換性に問題が生じる場合があるので、通常のご利用ではお勧めいたしません。

・パーティションのルール

Mac OS では、ハードディスク1台につき最大8個までのパーティション作成が可能です。

5.5.1.4 パーティションの設定

パーティションの設定は、Mac OSに標準添付の「ドライブ設定」で行います。

1) 「ドライブ設定の起動」

システムの入ったディスクから「Applications (Mac OS 9)」「ユーティリティ」「ドライブ設定」を選択し、そのフォルダの中にある「ドライブ設定」を起動してください。

< 注意！ >

システムによってはプログラムの場所が「ユーティリティ」「ドライブ設定」の中となっています。

2) ハードディスクの選択

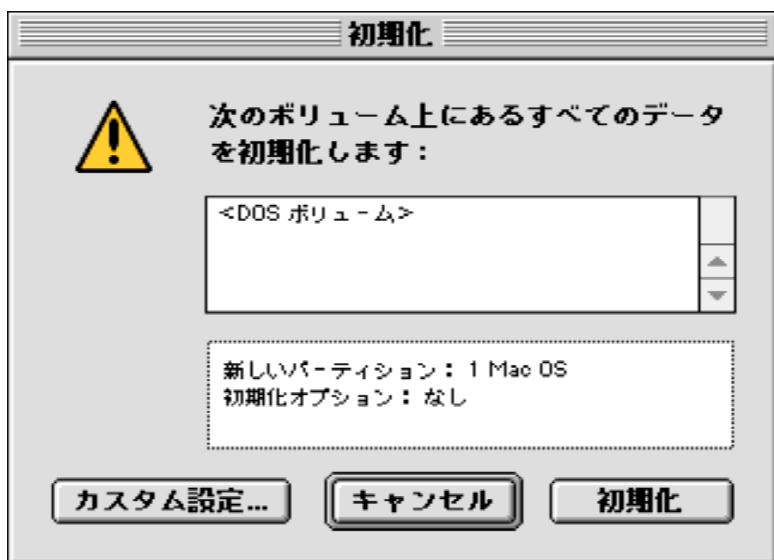
ハードディスクを搭載した本製品をPCカードスロットに挿入します。タイプ名が「PC CARD」と示されているディスクが本製品ですのでそれを選択して、「初期化」をクリックします。



(図15：ドライブの一覧)

3) パーティションの作成

「次のボリュームにある全てのデータを初期化します」というメッセージが表示されます。そのまま1ボリュームで初期化する場合には「初期化」ボタンを押せば初期化されます。細かく設定を分ける場合は、「カスタム設定」を押してください。



(図16：初期化)

4) パーティションのサイズの選択(「カスタム設定」-ドライブ)

「カスタム設定」では、一番上の「ドライブ」部分でパーティションの数を選択します。



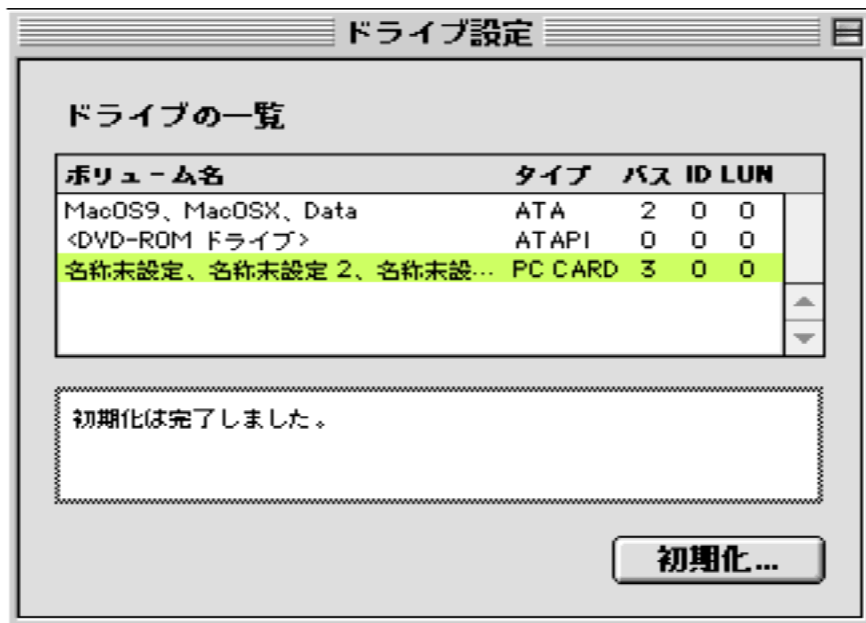
(図 17 : カスタム設定)

5) ファイルシステムの種類の選択 (「カスタム設定」-ボリューム)

分けたパーティションを一つづつ選択します。、右側の「ボリューム情報」でボリュームのタイプと容量を選択します。通常は「Mac OS 拡張」が選ばれています。容量は数字 (単位: メガバイト) で入力できます。全てのパーティションに対し、ボリューム情報が確定したら「OK」ボタンを押します。3) の画面に戻りますので、そこで「初期化」を押します。

5.5.1.5 ドライブのフォーマットとマウント

ドライブ設定で、フォーマットも自動的に行われ、ボリューム毎にマウントされます。



(図 18 : インストール後)

5.5.2 USB2.0 Dongle

2002年11月現在、AppleではUSB2.0のインターフェースを標準で用意していないためここでは、USB1.1での動作について説明します。

5.5.2.1 ドライバソフトウェア

Mac OS では、Mac OS 9.1以降に対応しています。
ドライバは、OS側でサポートされているのでドライバのインストールは不要です。

5.5.2.2 USB2.0 Dongleの接続と取り外し

・接続

ハードディスクを搭載した本製品をMacintosh本体のUSBインターフェース・ポートに装着することで利用できます。

・取り外し

本製品よりマウントされているハードディスクアイコンの全てをゴミ箱に入れる操作を行いますと、ハードディスクへのマウントが解除されます。その後USB2.0 Dongleを取り外して下さい。

5.5.2.3 Mac OS におけるパーティションの基本

Mac OS PCカードの項目と内容は同じです。 5.5.1.3をご参照下さい。

5.5.2.4 パーティションの設定

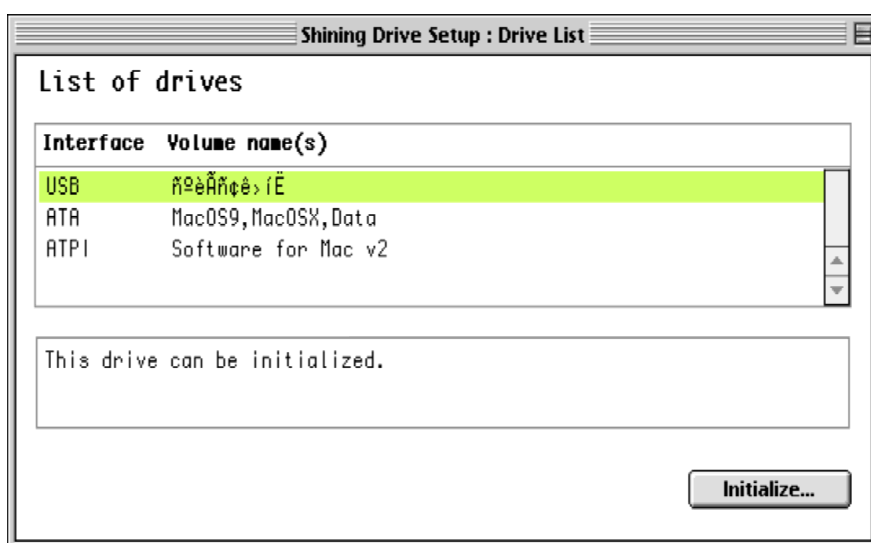
パーティションの設定は、Mac OSに標準添付の「ドライブ設定」は利用できません。パーティションの分割は、Shining Drive Setupを使います。

1) Shining Drive Setupの起動

同梱されているCD-ROMをマウントすると、画面に「Software for Mac v2」というCDが現れます。こちらのCDの中の「Utilities」フォルダの中に「Shining Drive Setup」というソフトウェアがありますので起動してください。

2) ハードディスクの選択

List of drivesというウィンドウが開き、マウントしているドライブが、InterfaceとVolume nameの表がでます。このとき、InterfaceがUSBのドライブを選択し、ウィンドウの右下の「Initialize...」というボタンを押してください。



(図19 : ドライブの一覧)

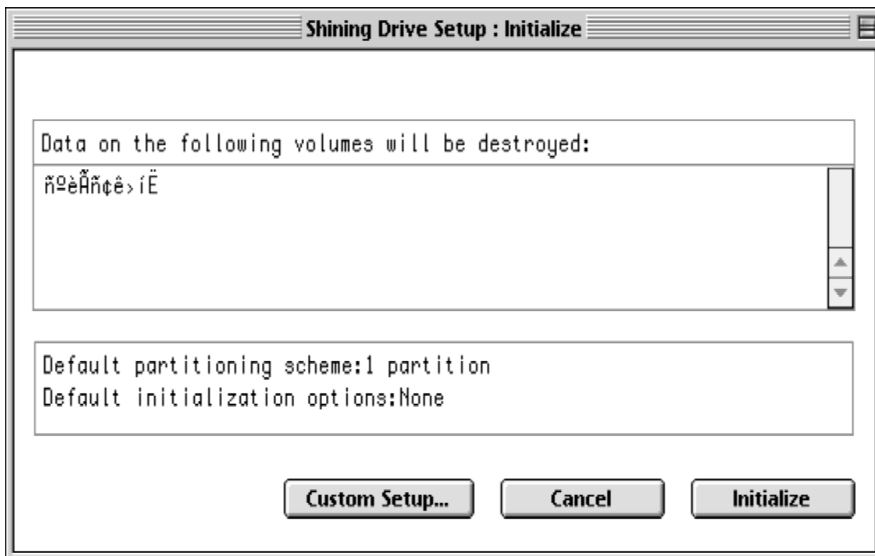
3) パーティションの作成

「Data on the following volumes will be destroyed」

(初期化する場合は、以下のボリュームが消失されます)

のメッセージが表示され、現在のパーティションが表示されます。

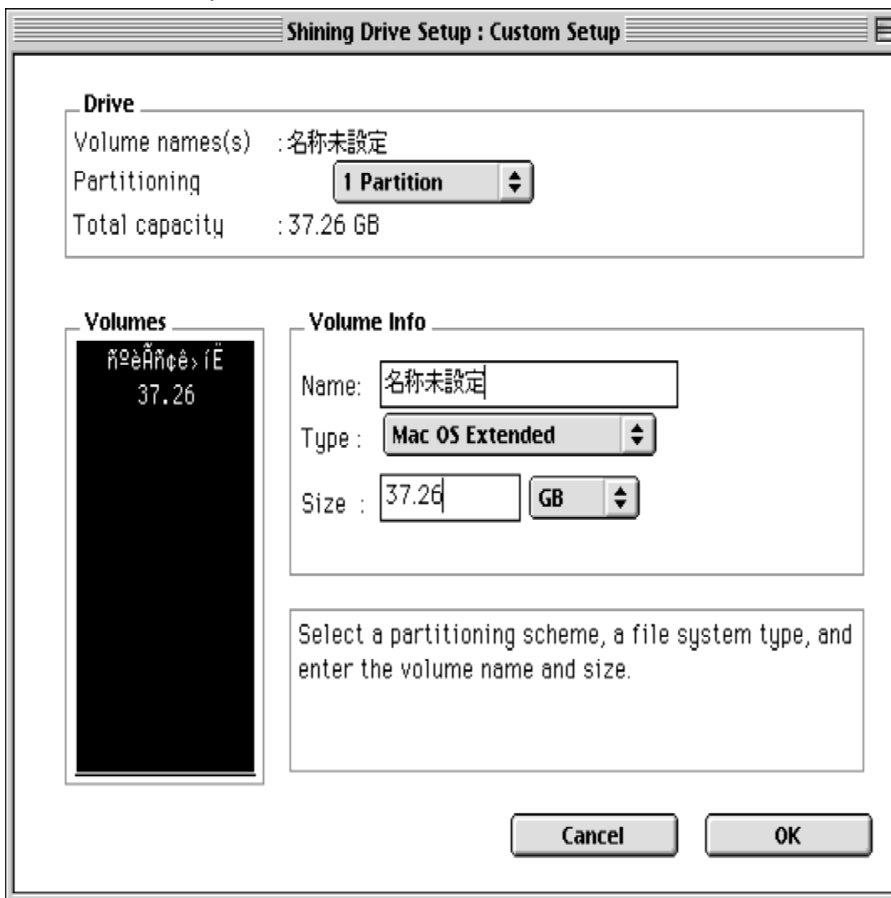
初期化する場合は、「initialize」ボタンを押してください。さらに細かくパーティションの設定を分ける場合は、「Custom Setup...」ボタンを押してください。



(図 2 0 : 初期化)

4) パーティションのサイズの選択

「Custom Setup」では、一番上の「Drive」部分でパーティションの数を選択します。



(図 2 1 : Custom Setup)

5) ファイルシステムの種類の選択

分けたパーティションを一つずつ選択します。、右側の「Volume Info」でボリュームのタイプと容量を選択します。通常は「Mac OS Extended(Mac OS 拡張)」が選ばれています。容量は数字(単位:メガバイト、ギガバイト、パーセンテージの中から一つを選択)で入力できます。

全てのパーティションに対し、ボリューム情報が確定したら「OK」ボタンを押します。3)の画面に戻りますので、そこで「Initialize(初期化)」を押します。

5.5.2.5 ドライブのフォーマットとマウント

ドライブ設定で、フォーマットも自動的に行われ、ボリューム毎にマウントされます。


5.5.3 FireWire Dongle

FireWire Dongleは、Mac OS 9以降で動作します。

5.5.3.1 ドライバソフトウェア

Mac OS 9.1以降ではドライバソフトのインストールは必要ありません。

Mac OS 9からMac OS 9.04までは、CD-ROMからドライバをインストールする必要があります。次の3点を確認してください。

- 1) 同梱されているCD-ROMをマウントすると、画面に「Software for Mac v2」というCDが現れます。こちらのCDの中の「Drivers」->「FWIDE」->「MacOS」フォルダの中に「Shining Firewire  Driver」というファイルがありますので、システムフォルダにコピーしてください。このファイルは機能拡張ですので、機能拡張フォルダへ割り振られます。
- 2) 更に「Drivers」->「FWIDE」->「MacOS」フォルダから「ATAManager」をシステムフォルダへコピーして下さい。このファイルは機能拡張ではないので、そのままシステムフォルダに置かれます。
- 3) FireWire機能拡張はバージョン2.4以降に対応しています。FireWire機能拡張のバージョンを確認するには、「コントロールパネル」「機能拡張マネージャ」を実行し「FireWire Enabler」「Fire Support」のバージョンを確認してください。

5.5.3.2 FireWire Dongleの接続と取り外し

・接続

ハードディスクを搭載した本製品をPowerBook本体のFireWireポートに装着することで利用できます。

・取り外し

本製品よりマウントされているハードディスクアイコンの全てをゴミ箱に入れる操作を行いますと、ハードディスクへのマウントが解除されます。その後FireWire Dongleを取り外して下さい。

5.5.3.3 MacOSにおけるパーティションの基本

Mac OS PCカードの項目と内容は同じです。 5.5.1.3をご参照下さい。

5.5.3.4 パーティションの設定

Mac OS 9.1以降の場合、標準のドライブ設定では、パーティションの分割ができません。この場合は、Shining Drive Setupを利用します。--> 5.5.2.3 を参照下さい。

Mac OS 9 - 9.04の場合、ドライブ設定によってパーティションの分割することができます。--> 5.5.1.3 を参照下さい。

5.5.3.5 ドライブのフォーマットとマウント

ドライブ設定またはShining Drive Setupで、フォーマットも自動的に行われ、ボリューム毎にマウントされます。

5.6 Mac OS X

Mac OS Xでは、USB2.0 DongleとFireWire Dongleが対応しています。PCカードDongleは**対応**しません。

5.6.1 USB2.0 Dongle

5.6.1.1 ドライバソフトウェア

Mac OS Xでは、OS側でサポートされているのでドライバのインストールは不要です。

5.6.1.2 USB2.0 Dongleの接続と取り外し

・接続

ハードディスクを搭載した本製品をMacintosh本体のUSBインターフェース・ポートに装着することで利用できます。

・取り外し

本製品よりマウントされているハードディスクアイコンの全てをゴミ箱に入れる操作を行いますと、ハードディスクへのマウントが解除されます。その後USB2.0ドングルを取り外して下さい。

5.6.1.3 Mac OS Xにおけるパーティションの基本

ハードディスクがオペレーティングシステムによって認識されて使用可能になるためには、パーティションを作成し、指定したファイルシステムによりフォーマットすることが必要です。

・ファイルシステムの種類

本製品では以下のフォーマットをサポートしています。

HFS: 標準パーティション, Mac OS 7.6からサポートされているパーティションで、領域の大きさに4ギガバイトの制限があります。

HFS+: 拡張されたパーティション, Mac OS 8.1以降からサポートされているパーティションで、領域の大きさは事実上制限がありません。

UFS: UNIXファイルシステムパーティション。4.3BSDと互換性を持つパーティションです。このファイルシステム上ではMac OS環境は動作しません。

・パーティションのルール

Mac OSでは、1台につき最大8個までの制限がありましたが、Mac OS Xでは、9個以上パーティションを作成することができます。

5.6.1.4 パーティションの設定

パーティションの設定は、Mac OS Xに標準添付の「ディスクユーティリティ」で行います。

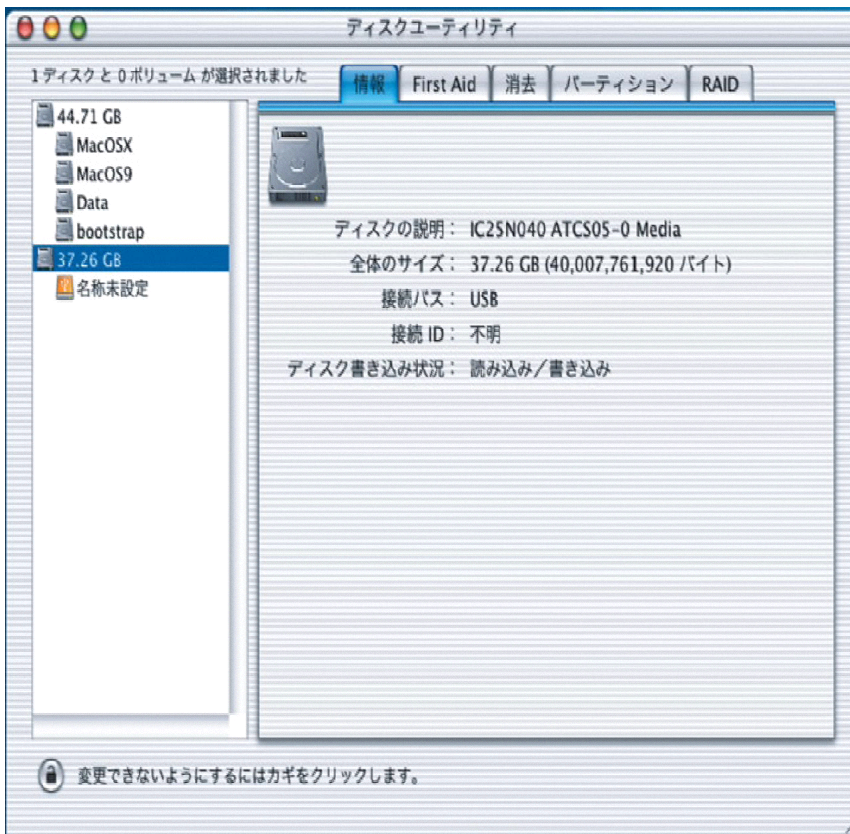
1) ディスクユーティリティの起動

システムの入ったディスクから「Applications」 「Utilities」を選択し、そのフォルダの中にある「Disk Utility」を起動してください。

2) ハードディスクの選択

ハードディスクを搭載した本製品をUSBインターフェース・ポートに挿入します。

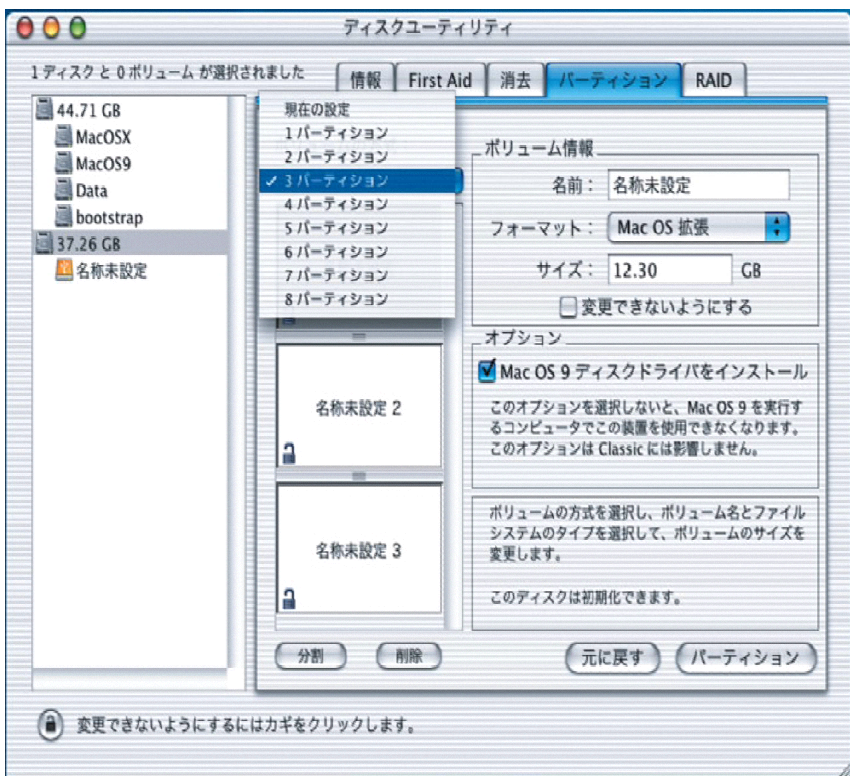
ウィンドウの左側に本製品に搭載されたドライブが示されますので、それをクリックします。右側のメニューの「情報」をクリックすると「接続バス」が「USB」であることを確認してください。



(図 2 2 : ドライブを選択)

3) パーティションの作成

左側のメニューの「パーティション」を選択します。「ボリュームの方式」で、パーティションの数を選択します。現在の設定から変更するには、「現在の設定」メニューバーを押して、パーティションの数を変更します。



(図 2 3 : パーティション数選択)

4)パーティションのサイズとファイルシステムの選択

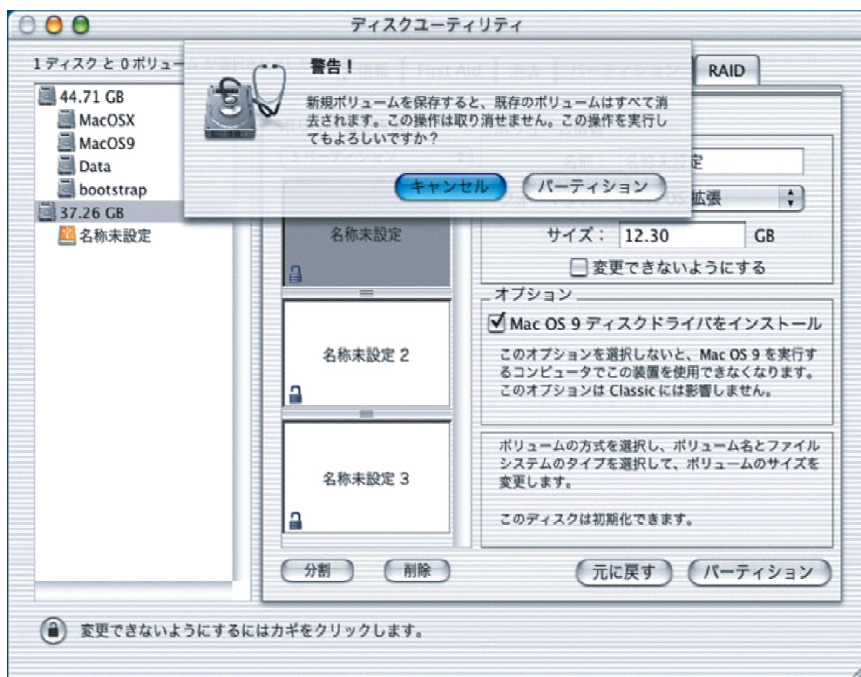
それぞれのパーティションを選択し、右上部の「ボリューム情報」で、「名前」「フォーマット」「サイズ」を決定します。

< 注意! >

フォーマットを選ぶ時、UNIXファイルシステムは、MacOS環境ではマウントできません。

5.6.1.5 ドライブのフォーマットとマウント

全てのパーティションについて、「ボリューム情報」を定義し終えたら、右下の「パーティション」ボタンを押します。一度確認の画面がでできます。そこで更に「パーティション」のボタンを押しますとドライブのフォーマットを開始します。フォーマットが完了するとドライブをマウントします。



(図 2 4 パーティションを選ぶ)

5.6.2 FireWire Dongle

FireWire DongleはMac OS Xで動作します。

5.6.2.1 ドライバソフトウェア

Mac OS X上で FireWire Dongleを利用するために新たなドライバソフトウェアをインストールする必要はありません。

5.6.2.2 FireWire Dongleの接続と取り外し

5.6.2.3 Mac OS Xにおけるパーティションの基本

5.6.2.4 パーティションの設定

5.6.2.5 ドライブのフォーマットとマウント

基本的にUSB2.0 Dongleと同じです。5.6.1.2 - 5.6.1.5 を参照下さい。

5.7 Linux

Linuxでは、PCカード DongleとUSB2.0 Dongleが動作します。Linuxには多数のディストリビューション及びバージョンがあり、全ての動作確認をするのは不可能です。そこで、以下では

- ・ Intel系はRedHat Linux 7.3 FTP版
- ・ Macintosh系はYellow Dog Linux 2.2日本語版

を題材にして説明します。これ以外のディストリビューション及びバージョンにおいては、

- ・ カーネルのバージョン
- ・ モジュールの組込状況
- ・ パッケージソフトウェアのインストール状況

といったソフトウェアの状態によって動作状況が変化しますので、ご注意ください。

5.7.1 PCカード Dongle

Intel系Linuxでは動作します。Mac系Linux、特にYellow Dog Linux 2.2日本語版では、PC用のストレージデバイスを認識させるためのモジュールが標準で組み込まれていないために動作しません。このモジュールが組み込まれているディストリビューションやバージョンではPCカードDongleが動作するかもしれません。

5.7.1.1 ドライバソフトウェア

Linuxでは、ディストリビューションやインストール方法によって、pcmciaのサービスが入っているかどうかが異なっています。本製品を動作させるためには、pcmciaのサービスが入っていることが必要です。Red Hat 7.3 ftp版では、標準でインストールされますので、必要ありません。

5.7.1.2 PCカードDongleの接続と取り外し

- ・ 接続

ハードディスクを搭載した本製品をコンピュータ本体のPCカードスロットに装着することで利用できます。PCカードスロットに本製品を差し込んだ時に「ピッ」という認識音が二度鳴り、ストレージデバイスとして認識されます。すでにフォーマットされている場合、例えば、PCカードDongleが `/dev/hdc1`、マウントポイントが `/mnt/rebdrive`とすると、以下のようにマウントします。

```
# mount /dev/hdc1 /mnt/rebdrive
```

- ・ 取り外し

マウントされているハードディスクをumountコマンドによりアンマウントすることにより、取り外すことができます。上記の例だと、次のようにしてマウントを解除し、 dongleを取り外してください。

```
# umount /dev/hdc1 /mnt/rebdrive
```

5.7.1.3 Linuxにおけるパーティションの基本

ハードディスクがオペレーティングシステムによって認識されて使用可能になるためには、パーティションを作成し、指定したファイルシステムによりフォーマットすることが必要です。

Linuxでは、標準的に用いられるファイルシステムはext2ですがそれ以外に様々なファイルシステムをサポートしています。対応しているファイルシステムについては、それぞれのディストリビューションのドキュメントを参照下さい。

5.7.1.4 パーティションの設定

パーティションの設定は、シェル環境で管理者権限(通常はroot)で行います。
Linux上ではfdiskコマンドが用意され、パーティションの設定はfdiskコマンドで行います。

1) デバイスの場所の確認

fdiskコマンドを実行する前に、デバイスの場所を確認します。

ハードディスクを搭載した本製品をPCカードスロットに挿入します。

「ピッ」という認識音が二度鳴り、ストレージデバイスとして認識されます。

/var/log/messagesのログファイルで、認識されたデバイス名などを確認します。

```
Dec  5 05:58:25 localhost cardmgr[689]: initializing socket 0
Dec  5 05:58:25 localhost cardmgr[689]: socket 0: ATA/IDE Disk
Dec  5 05:58:25 localhost cardmgr[689]: executing: 'modprobe id
Dec  5 05:58:28 localhost kernel: ide-floppy driver 0.99.newide
Dec  5 05:58:31 localhost kernel: hdc: IC25N040ATCS05-0,SKATDrive
Dec  5 05:58:31 localhost kernel: ide1 at 0x100-0x107,0x10e 3on
Dec  5 05:58:31 localhost kernel: ide-floppy driver 0.99.newide
Dec  5 05:58:31 localhost kernel: hdc: 78140160 sectorsMB(40008898KiB Cache,
CHS=77520/16/63
Dec  5 05:58:31 localhost kernel: hdc: hdc1
Dec  5 05:58:31 localhost kernel: ide_cs: hdc: Vcc = 5.0,0 Vpp =
Dec  5 05:58:31 localhost cardmgr[689]: executing: './ide hddart
Dec  5 05:58:31 localhost cardmgr[689]: + invalid line /part/procs: '6'
```

ハードディスクデバイス名はhdcで、IBMの40GBのディスクとして認識されていることがわかります。

2) fdiskによるパーティションの作成

シェル環境からfdiskコマンドを実行してください。通常は/sbin/fdiskにあります。

ハードディスクデバイスがhdcと認識されているので、パラメータに/dev/hdcを記述します。

```
[root@localhost log]# /sbin/fdisk /dev/hdc
```

```
このディスクのシリンダ数は 77520 に設定されています。
間違いではないのですが、1024 を超えているため、以下の場合
に問題を生じうる事を確認しましょう:
1) ブート時に実行するソフトウェア (例. バージョンが古い LILO)
2) 別の OS のブートやパーティション作成ソフト
   (例. DOS FDISK, OS/2 FDISK)
```

```
コマンド (m でヘルプ):
```

・現状のパーティションの確認

現在のハードディスクのパーティションを見るため、「p」コマンドで確認します。今のところ何も設定されていません。

```
コマンド (m でヘルプ): p
```

```
ディスク /dev/hdc: ヘッド 16, セクタ 63, シリンダ 77520
ユニット = シリンダ数 of 1008 * 512 バイト
```

```
デバイス  ブート      始点          終点    ブロック      ID    システム
```

```
コマンド (m でヘルプ):
```

・新しいパーティションの作成

新たにパーティションを作るため「n」コマンドで作成します。基本領域の一番目に先頭シリンダが1，最終シリンダが77520となるパーティションを作成しました。

```
コマンド (m でヘルプ): n
コマンドアクション
    e      拡張
    p      基本領域 (1-4)
p
領域番号 (1-4): 1
最初 シリンダ (1-77520, 初期値 1): 1
終点 シリンダ または +サイズ または +サイズM または +サイズK (1-77520, 初期値 77620): 7752

コマンド (m でヘルプ):
```

・作成されていることを確認

現在のハードディスクのパーティションを見るため、「p」コマンドで確認します。一つのLinuxパーティションが設定されました。

```
コマンド (m でヘルプ): p

ディスク /dev/hdc: ヘッド 16, セクタ 63, シリンダ 77520
ユニット = シリンダ数 of 1008 * 512 バイト

   デバイス   ブート   始点       終点   ブロック   ID   システム
/dev/hdc1                1       77520   39070048+  83   Linux

コマンド (m でヘルプ):
```

・パーティションの書き込み

現在の設定をハードディスクに書き込むため、「w」コマンドを実行します。以下では、パーティションが正常に書き込まれたことを示しています。

```
コマンド (m でヘルプ): w
領域テーブルは交換されました！

ioctl() を呼び出して領域テーブルを再読み込みします。

警告: DOS 6.x 領域を作成、または変更してしまった場合は、
fdisk マニュアルの追加情報ページを参照してください。
ディスクを同期させます。
[root@localhost log]#
```

5.7.1.5 ドライブのフォーマットとマウント

1) フォーマット

作成したパーティションをフォーマットさせるには、mkfsコマンドを用います。通常は、/sbin/mkfsに存在します。パラメータにはパーティションのデバイスファイル名を入力します。容量が多い場合は多少時間がかかります。以下は、フォーマットが完了するまでのメッセージを示しています。

```

[root@localhost log]# /sbin/mkfs /dev/hdc1
mke2fs 1.27 (8-Mar-2002)
Filesystem label=
OS type: Linux
Block size=4096 (log=2)
Fragment size=4096 (log=2)
4889248 inodes, 9767512 blocks
488375 blocks (5.00%) reserved for the super user
First data block=0
299 block groups
32768 blocks per group, 32768 fragments per group
16352 inodes per group
Superblock backups stored on blocks:
    32768, 98304, 163840, 229376, 294912, 819200, 884736, 1606632,2
    4096000, 7962624

Writing inode tables: done
Writing superblocks and filesystem accounting information: done

This filesystem will be automatically checked every 20 mounts or
180 days, whichever comes first.  Use tune2fs -c or -ideto overri
[root@localhost log]#

```

2) マウント先ディレクトリの確認

OS側にディスクを組み込む場所のディレクトリを作成します。通常は、/mnt以下に任意の名前でディレクトリを作成します。パーティションが複数ある時は、それぞれに対応するディレクトリを作成します。

```
# mkdir /mnt/rebdrive
```

3) マウントコマンドの実行

次に、実際のマウントを実行します。最初のパラメータにパーティションのデバイスファイル名を、2つ目のパラメータにマウント先のディレクトリ名を入力します。

```
#mount /dev/hdc1 /mnt/rebdrive
```

4) マウントを確認

マウントの確認方法はいろいろありますが、ここでは、「df」コマンドによって確認します。以下の例では、一番最後の行に、/dev/hdc1がマウントされていることを示しています。

```

[root@localhost mnt]# df
Filesystem            1k-blocks      Used Available Use% Mounted
/dev/hda2              5469332    1242356   3949148   24% /
/dev/hda1              51206      8871     39691    19% /boot
none                  63284        0     63284    0% /dev/shm
/dev/cdrom             612012    612012         m         0 100% /mnt/cdro
/dev/hdc1             38456308        20    36502788    1% /mnt/rebd
[root@localhost mnt]#

```


5.7.2 USB2.0 Dongle

Intel系Linux、Mac系Linux共に、USB外部ストレージとして認識します。動作環境の制約から、USB1.1での動作確認しか行っていません。ここでは、USB1.1での動作方法について説明します。

5.7.2.1 ドライバソフトウェア

Intel系,Mac系ともにMass Strage Driverが利用できることが必要です。また、安定性の点からカーネル2.4以降のシステムの利用を推奨します。USBストレージデバイスは、SCSI機器とみなされて認識されることに注意してください。

5.7.2.2 USB2.0 Dongleの接続と取り外し

・接続

ハードディスクを搭載した本製品をコンピュータ本体のUSBポートに接続することで利用できます。すでにフォーマットされている場合、例えば、USB2.0 Dongleが /dev/sda1、マウントポイントが/mnt/rebdriveだとすると、次のようにしてマウントします。

```
# mount /dev/sda1 /mnt/rebdrive
```

・取り外し

マウントされているハードディスクをumountコマンドによりアンマウントしたあと、取り外すことができます。上記の例だと、次のようにしてマウントを解除し、dongleを取り外してください。

```
# umount /dev/sda1 /mnt/rebdrive
```

5.7.2.3 Linuxにおけるパーティションの基本

ハードディスクがオペレーティングシステムによって認識されて使用可能になるためには、パーティションを作成し、指定したファイルシステムによりフォーマットすることが必要です。

Linuxでは、標準的に用いられるファイルシステムはext2ですがそれ以外に様々なファイルシステムをサポートしています。対応しているファイルシステムについては、それぞれのディストリビューションのドキュメントを参照下さい。

5.7.2.4 パーティションの設定

パーティションの設定は、シェル環境で管理者権限(通常はroot)で行います。Linux上ではfdiskコマンドが用意され、パーティションの設定はfdiskコマンドで行います。

1) デバイスの場所の確認

fdiskコマンドを実行する前に、デバイスの場所を確認します。

ハードディスクを搭載した本製品をUSBポートに挿入します。

/var/log/messagesのログファイルで、認識されたデバイス名などを確認します。

下記のメッセージでは、USB Mass Strage DriverがSCSI機器の0番目として初期化されていることがわかります。但しハードディスクは型番のみ認識されています。

```

Dec  5 09:26:42 localhost kernel: hub.c: USB new device 000b0a01/1, assigned device
number 2
Dec  5 09:26:42 localhost kernel: usb.c: USB device 2 d(v000b0a01/0x60) is not claimed
by any active driver.
Dec  5 09:26:45 localhost /etc/hotplug/usb.agent: Setup 000b0a01 USB product
5ab/60/1106
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: SCSI subsystem driver: Revisited
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: Initializing USB Mass Storage..
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: usb.c: registered newusb storage
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: scsi0 : SCSI emulation Mass Storage devices
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: usb-uhci.c: interrupt, status# 1672
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: Vendor: IC25N040 CSD05d01: AT
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: Type: Direct-Access
revision: 02
Dec  5 09:26:46 localhost kernel: USB Mass Storage supported

```

Rev: CS40
ANSI SCSI

2) fdiskによるパーティションの作成

シェル環境からfdiskコマンドを実行してください。通常は/sbin/fdiskにあります。

上記のメッセージからハードディスクデバイス番号はsdaと推測されます。「sda」の「sd」はSCSI機器であることを示し、「a」は一番最初に認識された機器であることを示します。すでにSCSI機器として認識された機器がある場合は、「a」ではなく、「b」以降と推測されます。

ここでは、パラメータに/dev/sda を記述します。

```
[root@localhost log]# /sbin/fdisk /dev/hda
```

```

このディスクのシリンダ数は 38154 に設定されています。
間違いではないのですが、1024 を超えているため、以下の場合
に問題を生じうる事を確認しましょう:
1) ブート時に実行するソフトウェア (例. バージョンが古い LILO)
2) 別の OS のブートやパーティション作成ソフト
   (例. DOS FDISK, OS/2 FDISK)

```

コマンド (m でヘルプ):

・現状のパーティションの確認

現在のハードディスクのパーティションを見るため、「p」コマンドで確認します。今のところ何も設定されていません。

```
コマンド (m でヘルプ): p
```

```

ディスク /dev/hdc: ヘッド 64, セクタ 32, シリンダ 38154
ユニット = シリンダ数 of 2048 * 512 バイト

```

```
デバイス  ブート   始点           終点   ブロック   ID   システム
```

コマンド (m でヘルプ):

・新しいパーティションの作成

新たにパーティションを作るため、「n」コマンドで作成します。基本領域の一番目に、先頭シリンダが1, 最終シリンダが38154となるパーティションを作成しました。


```

コマンド (m でヘルプ): n
コマンドアクション
    e    拡張
    p    基本領域 (1-4)
p
領域番号 (1-4): 1
最初 シリンダ (1-38154, 初期値 1): 1
終点 シリンダ または +サイズ または +サイズM または +サイズK (1-38154, 初期値 38454): 3815
コマンド (m でヘルプ):

```

- ・作成されていることを確認
現在のハードディスクのパーティションを見るため、「p」コマンドで確認します。一つのLinuxパーティションが設定されました。

```

コマンド (m でヘルプ): p

ディスク /dev/sda: ヘッド 64, セクタ 32, シリンダ 38154
ユニット = シリンダ数 of 1008 * 512 バイト

   デバイス   ブート   始点       終点   ブロック   ID   システム
/dev/sda1                1       38154   39069680+  83   Linux

コマンド (m でヘルプ):

```

- ・パーティションの書き込み
現在の設定をハードディスクに書き込むため、「w」コマンドを実行します。以下では、パーティションが正常に書き込まれたことを示しています。

```

コマンド (m でヘルプ): w
領域テーブルは交換されました！

ioctl() を呼び出して領域テーブルを再読み込みします。

警告: DOS 6.x 領域を作成、または変更してしまった場合は、
fdisk マニュアルの追加情報ページを参照してください。
ディスクを同期させます。
[root@localhost log]#

```

5.7.2.5 ドライブのフォーマットとマウント

1) フォーマット

作成したパーティションをフォーマットさせるには、mkfsコマンドを用います。通常は、/sbin/mkfsに存在します。パラメータにはパーティションのデバイスファイル名を入力します。容量が多い場合は多少時間がかかります。以下は、フォーマットが完了するまでのメッセージを示しています。

```

[root@localhost log]# /sbin/mkfs /dev/sda1
mke2fs 1.27 (8-Mar-2002)
Filesystem label=
OS type: Linux
Block size=4096 (log=2)
Fragment size=4096 (log=2)
4889248 inodes, 9767420 blocks
488371 blocks (5.00%) reserved for the super user
First data block=0
299 block groups
32768 blocks per group, 32768 fragments per group
16352 inodes per group
Superblock backups stored on blocks:
    32768, 98304, 163840, 229376, 294912, 819200, 884736, 16066208,2
    4096000, 7962624

Writing inode tables: done
Writing superblocks and filesystem accounting information: done

This filesystem will be automatically checked every 20 mounts or
180 days, whichever comes first.  Use tune2fs -c or -ideto overri
[root@localhost log]#

```

2) マウント先ディレクトリの確認

OS側にディスクを組み込む場所のディレクトリを作成します。通常は、/mnt以下に任意の名前でディレクトリを作成します。パーティションが複数ある場合には、それぞれに対応するディレクトリを作成してください。

```
# mkdir /mnt/rebdrive
```

3) マウントコマンドの実行

次に、実際のマウントを実行します。最初のパラメータにパーティションのデバイスファイル名を、2つ目のパラメータにマウント先のディレクトリ名を入力します。

```
#mount /dev/sda1 /mnt/rebdrive
```

4) マウントを確認

マウントの確認方法はいろいろありますが、ここでは、「df」コマンドによって確認します。以下の例では、一番最後の行に、/dev/hdc1がマウントされていることを示しています。

```

[root@localhost mnt]# df
Filesystem            1k-blocks      Used Available Use% Mounted
/dev/hda2              5469332    1242356   3949148   24% /
/dev/hda1              51206         8871     39691    19% /boot
none                  63284          0         63284    0% /dev/shm
/dev/cdrom             612012     612012      m         0 100% /mnt/cdro
/dev/sda1             38455940      20    36502436    1% /mnt/rebd
[root@localhost mnt]#

```

6. トラブルシューティング

製品に関するトラブルが発生した場合には「RebDriveサポートフォーム」からお問い合わせすることができます。サポートには情報の収集が必要不可欠ですので、できるだけトラブルの具体的な内容を記載して下さい。後ほど、弊社のサポート担当よりご連絡をさせていただきます。

<http://www.amulet.co.jp/products/RebDrive/support/>

7. 主な仕様

各製品の梱包物

RebDrive 2.5 Dongle PCカード+USB2.0+FireWire

型番：AMU-RD25DPUF-S

取扱説明書、ACアダプタ、 dongle (PCカード+USB2.0+FireWire)

MC36pinハードディスクケース、ドライブCD-ROM、保証書

RebDrive 2.5 Dongle PCカード

型番：AMU-RD25DPC-S

取扱説明書、ACアダプタ、dongle (PCカード)

MC36pinハードディスクケース、ドライブCD-ROM、保証書

RebDrive 2.5 Dongle USB2.0

型番：AMU-RD25DUSB-S

取扱説明書、ACアダプタ、dongle (USB2.0)

MC36pinハードディスクケース、ドライブCD-ROM、保証書

RebDrive 2.5 Dongle FireWire

型番：AMU-RD25DFW-S

取扱説明書、ACアダプタ、dongle (FireWire)

MC36pinハードディスクケース、ドライブCD-ROM、保証書

RebDrive 2.5 Dongle PCカード

型番：AMU-RD25DPC

dongle仕様：PCカード/IDE

転送速度（理論値：bit/sec）：最大16Mbps

対応OS

Apple：Mac OS：漢字Talk7.6、Mac OS 8 以降}

Windows：Windows95、Windows98、WindowsME、WindowsNT、
Windows2000、Windows XP

Linux：Red Hat 7.3 (Intel PC)

対応機種

Apple：PCカードスロット搭載のPowerBook

PowerBook1400以降 PCMCIA Release2.1 Type II 仕様に準拠した

PC：PCカードスロットを装備したPC/AT互換機

RebDrive 2.5 Dongle USB2.0

型番： AMU-RD25DUSB

Dongle仕様：USB2.0

転送速度（理論値：bit/sec）：最大480Mbps（USB2.0）、最大16Mbps（USB1.1）

対応OS

Apple：Mac OS 9.1以降（USB1.1接続）Mac OS X（USB1.1接続）

Windows：Windows ME、Windows 2000、Windows XP

Linux：Red Hat 7.3（Intel PC）Yellow Dog Linux 2.2日本語版（PPC）

対応機種

Apple：USB標準搭載のPowerMacintosh、Mac、PowerBook G3、iBook、PowerBook G4

PC：USB1.1ポートまたはUSB2.0ポートを標準装備した、PC/AT互換機

RebDrive 2.5 Dongle FireWire

型番：AMU-RD25DFW

Dongle仕様：FireWire/IEEE-1394/i.Link（UltraDMA対応）

転送速度（理論値：bit/sec）：最大400Mbps

対応OS

Apple：Mac OS 9.1以降 Mac OS X

Windows：Windows 98SE、Windows ME、Windows 2000、Windows XP

対応機種

Apple：FireWire標準搭載のPowerMacintosh、PowerBook、iBook、iMac

PC：FireWire（IEEE-1394、i.Link）ポートを装備したPC/AT互換機

MC36pinハードディスクケース

型番：(AMU-RD25DHDC)

外形寸法：125mm(W) x 210mm(L) x 40mm(H)

バスパワー対応、AC 5V 1.5A

マニュアル製作： アミュレット株式会社 店頭営業部

2002年12月5日 発行

2002年12月20日 改訂